

## 教員アンケートの結果分析について

- ◆ 本アンケートは箕面市における小中一貫教育の現状や教員の考え方等を把握することにより、小中一貫教育のさらなる充実に資する基礎資料とすることを目的としています。
- ◆ また、施設一体型小中一貫校における勤務経験が「義務教育 9 年間を一体的に捉えて指導にあたる意識」に影響するののかについても把握するため、施設一体型小中一貫校での勤務年数別に分析を行っています。
- ◆ 本アンケートの結果は、今後の施策立案、小中一貫教育推進計画の策定等に活用していきます。

### ●アンケート実施内容

#### ○ アンケート期間

令和 5 年 1 月 18 日（水）～2 月 3 日（金）

#### ○ アンケート方法

MicrosoftForms による Web アンケート

#### ○ 回答対象者

業務用タブレットを保有する全教員（お休み中のかたは除く）

#### ○ アンケート依頼方法

- ・ 校長経営会議にて校長に依頼し、校長から教員へ周知
- ・ 校務シェアボードの掲示板にて周知
- ・ 締め切り 1 週間前に校務シェアボードの掲示板にて再周知

#### ○ 回答者数

小学校籍教員 159 名（回答対象者 497 名 回答率 32%）

中学校籍教員 115 名（回答対象者 275 名 回答率 42%）

#### ○ アンケート回答における注意事項として回答者に事前に伝えていること

- ・ このアンケートは、回答した個人・学校の特定は行いません。
- ・ このアンケートの回答が、人事・評価・給与等に影響することはありません。
- ・ 学校の状況を伺う質問がありますが、この質問のために調べる必要はありません。「わからない」を選択してください。

### ●本アンケートにおける定義

小中一貫教育：小中連携をしながら小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す教育のうち、小・中学校が目指す子どもの姿を共有し、9 年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

校 種：「小学校」「中学校」などの学校の種別

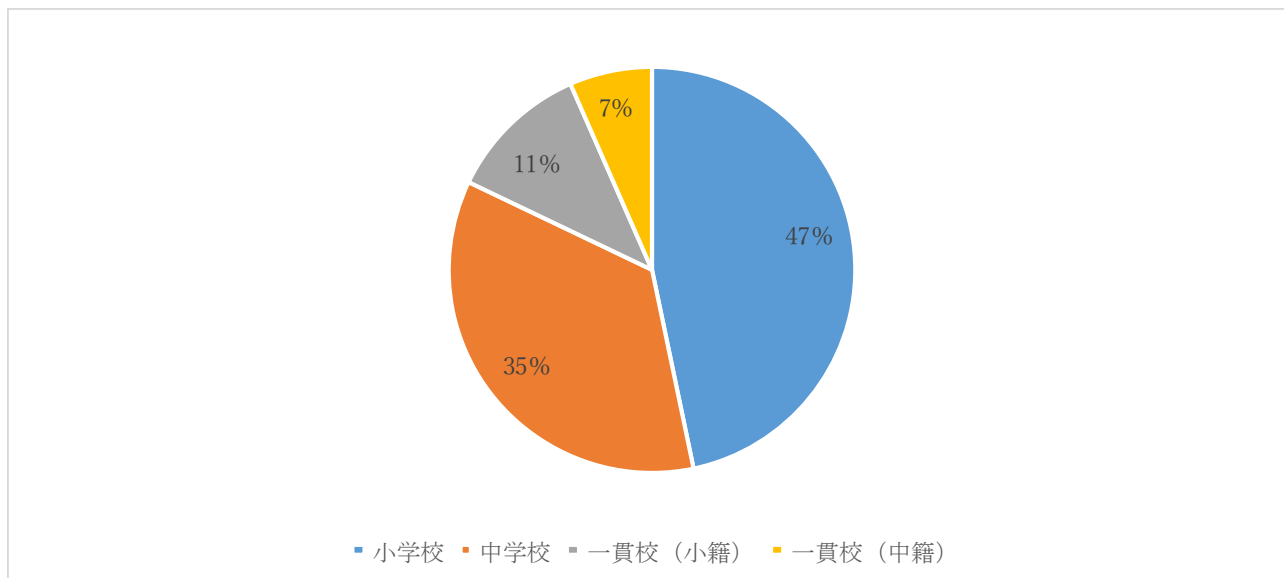
施設一体型小中一貫校：とどろみ・彩都のような 1 つの施設の中で行う施設形態

校区連携型小中一貫教育：上記校以外の、中学校区単位で連携して行う小中一貫教育

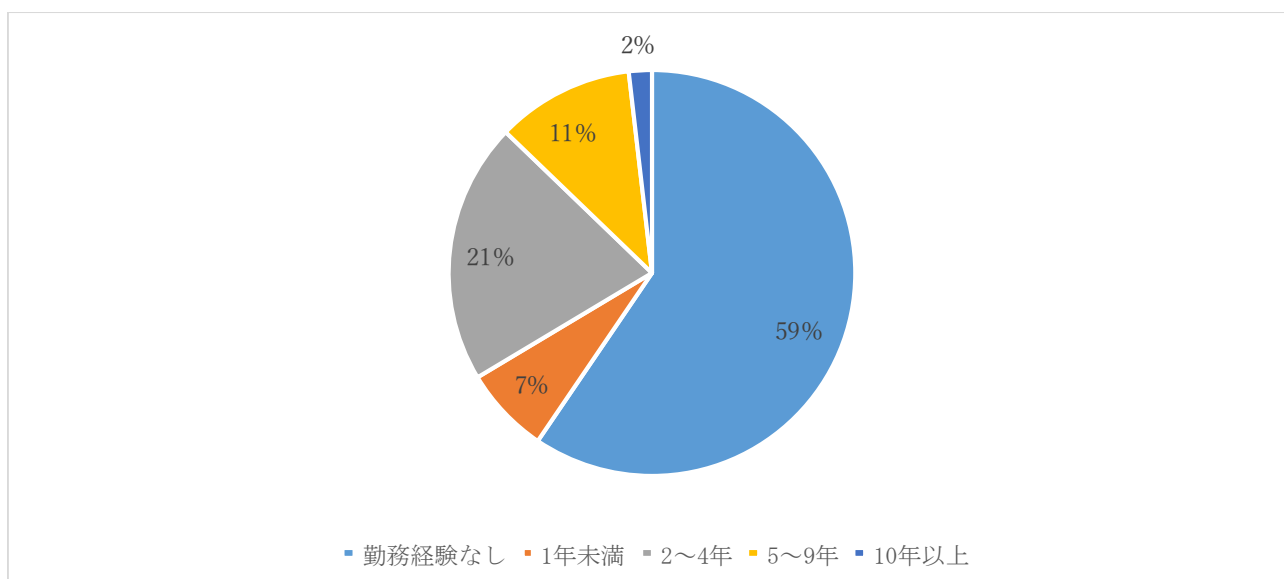
中 1 ギャップ：小中の差異により、中学校進学時に生じる生徒への負担

①アンケート回答者の基礎情報（括弧内は回答数）

●現在勤務している学校について（274件）



●施設一体型小中一貫校の勤務経験について

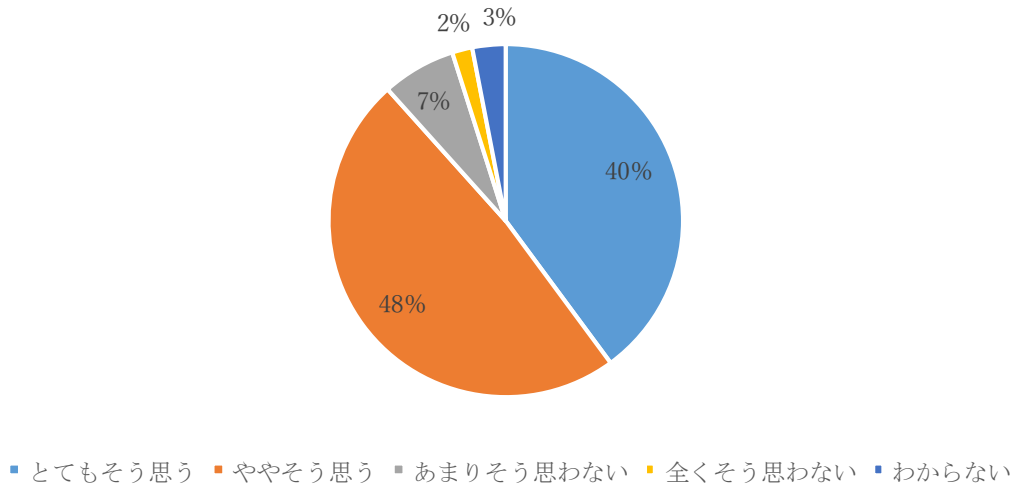


## ②小中一貫教育の意識等に関するアンケート結果

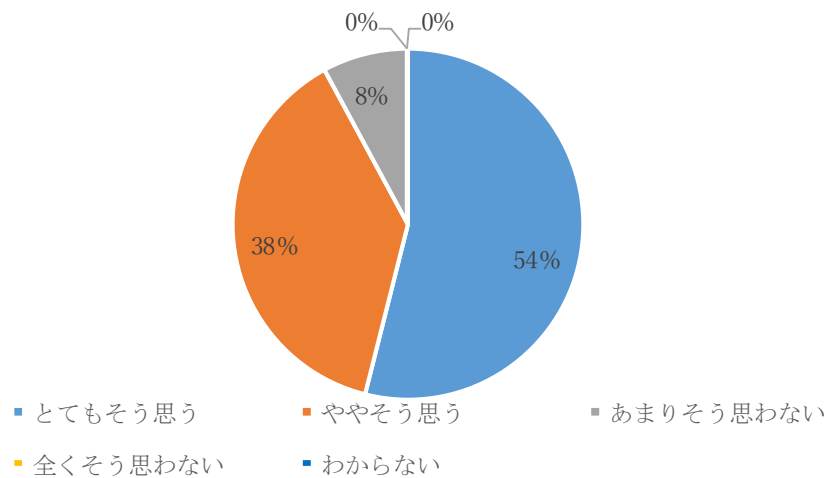
一貫校での勤務経験が、一貫教育を進める意識等に影響を与えるかを調査した。

●9年間の義務教育過程全体を意識して指導にあたることは重要だと思いますか。

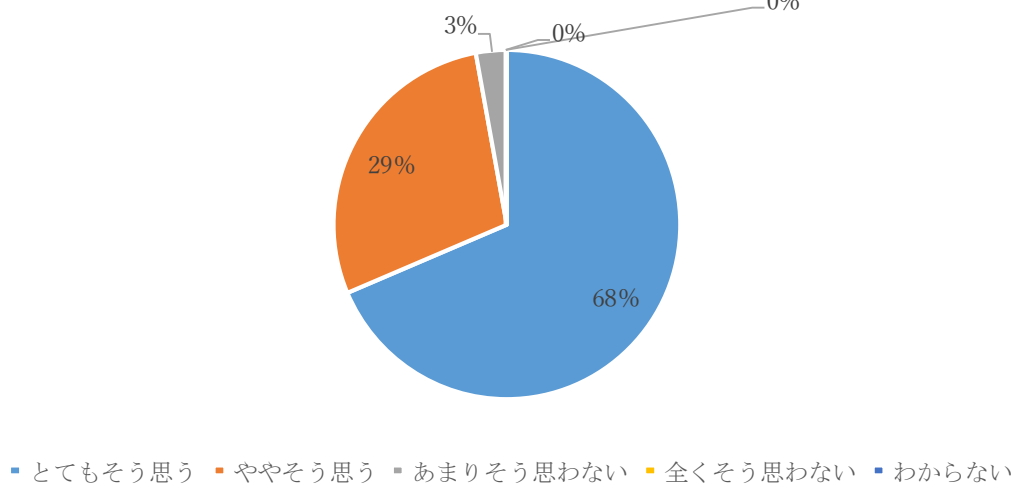
施設一体型勤務経験なし（163件）



施設一体型4年未満（76件）

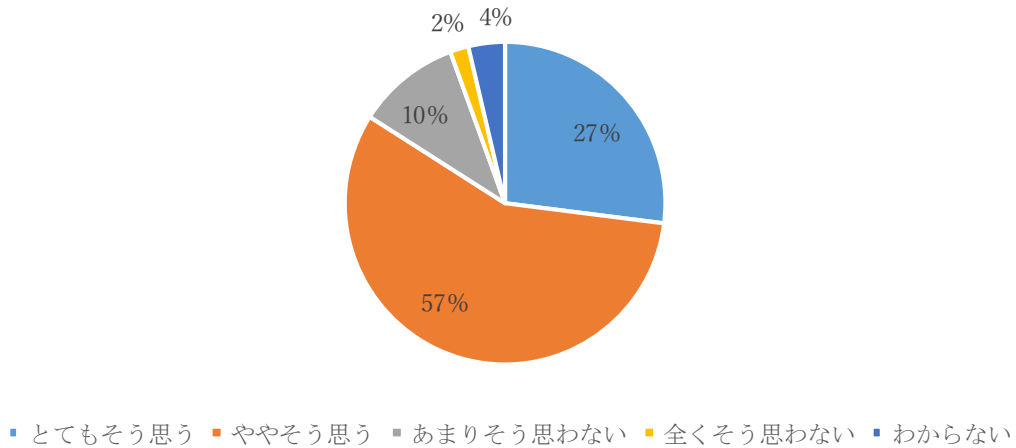


施設一体型5年以上（35件）

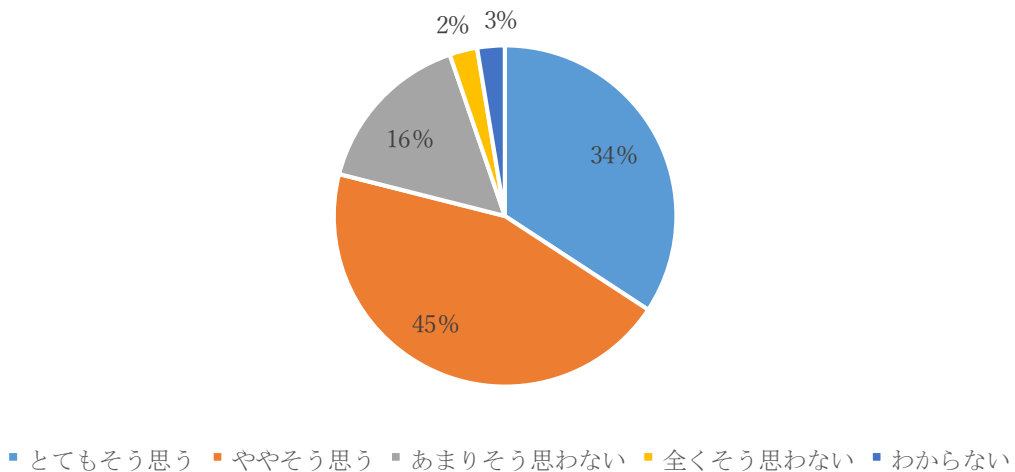


●同じ中学校ブロック内の小学生中学生が交流することは重要だと思いますか。

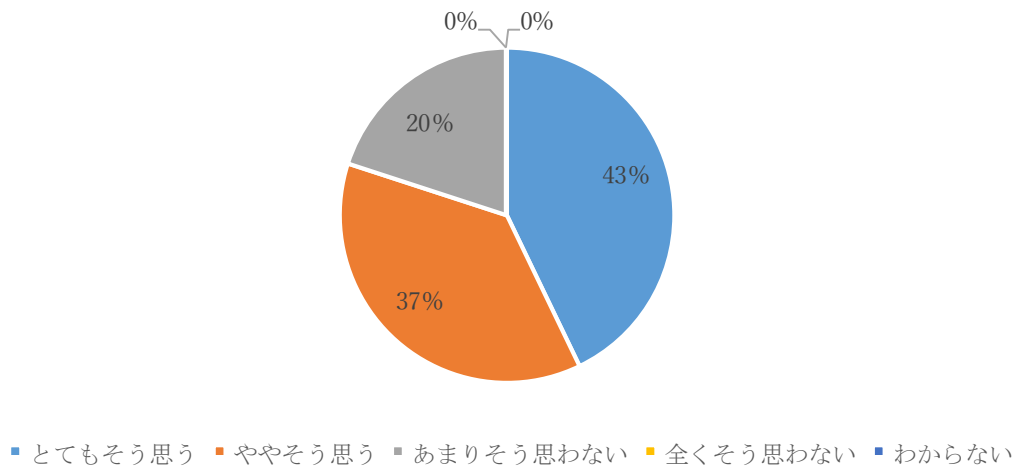
施設一体型勤務経験なし（163件）



施設一体型4年未満（76件）

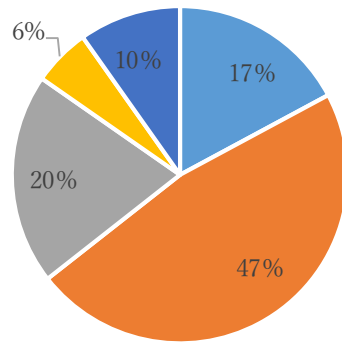


施設一体型5年以上（35件）



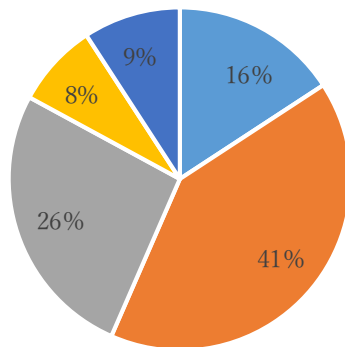
●小中一貫教育を進めることに必要性を感じますか。

施設一体型勤務経験なし（163件）



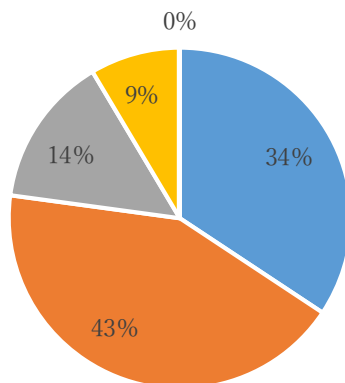
■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ わからない

施設一体型4年未満（76件）



■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ わからない

施設一体型5年以上（35件）



■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない ■ わからない

● 「小中一貫教育を進めることに必要性を感じますか。」の選択理由（自由記述）

【とてもそう思う、ややそう思う】

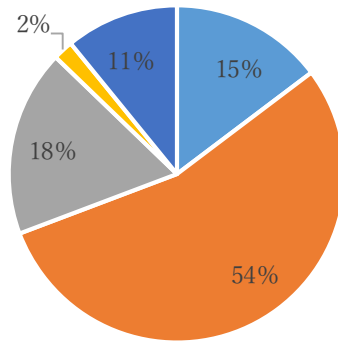
- ・ 「中1ギャップの解消」「9年間のつながりが重要」「学びの連続性が重要」という意見が多くを占めた。
- ・ その他「支援教育では小中連携の重要性がある」「地域・保護者とのつながりが強くなる」「他校種の教員から学べる」「乗り入れ授業が有意義」などの意見があった。
- ・ 「子どもの成長を見ていくうえで小中一貫で見ていくことは重要であるが、教育課程が違う以上、小中を同じ枠内で捉えて指導していくことには無理なことが多い」という、一貫教育の重要性は理解しつつも、実際に一貫教育を実践してみて、小中の教育課程の違いにより実現が難しいと感じる教員の意見もあった。

【あまりそう思わない、全くそう思わない】

- ・ 「小と中で免許・指導方法・発達の状況・システムが異なるため、それを合体させることに無理がある」「6年生の役割がほとんどない」「小中の教職員間の対立が増える」などの理由が挙げられた。
- ・ 大規模校としての課題などの、一貫教育自体の課題ではない意見も多く見られた。
- ・ 「これまでの一貫教育の取り組みの成果が見えない」など、一貫教育の成果を分析・周知できていないことに対する意見も見られた。
- ・ その他の意見として「ギャップがないため成長しづらい」「環境が変わらないのでリセットするチャンスがない」「同じ中学校ブロック内の小学生中学生が交流することは一貫校でなくても可能であり、一貫校の利点を感じない」などの、小中一貫教育と施設一体型小中一貫校とを混同して回答したとみられるものも多数存在した。

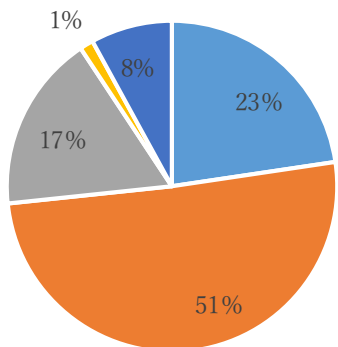
- (小籍教員向けの質問) あなたは子どもたちが中学校で学ぶ内容を意識した授業作りを行っていますか。
- (中籍教員向けの質問) あなたは子どもたちが小学校で学んだ内容を意識した授業作りを行っていますか。

施設一体型勤務経験なし (156件)



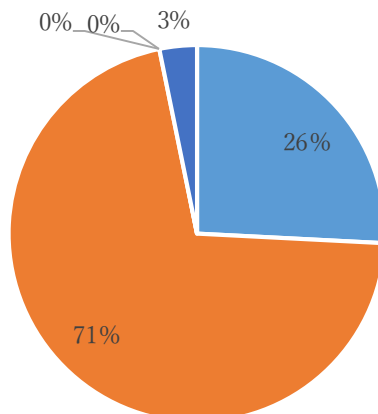
■ とても意識している ■ やや意識している ■ あまり意識していない ■ 全く意識していない ■ わからない

施設一体型4年未満 (75件)



■ とても意識している ■ やや意識している ■ あまり意識していない ■ 全く意識していない ■ わからない

施設一体型5年以上 (31件)



■ とても意識している ■ やや意識している ■ あまり意識していない ■ 全く意識していない ■ わからない

#### ◆ 【まとめ】一貫教育の意識に関するアンケートの結果について

一貫教育の意識に関する回答については、ほぼ全ての設問において、施設一体型小中一貫校での勤務経験が長い程、肯定的な回答が増える傾向であることがわかった。

特に中学校で学ぶ内容、小学校で学んだ内容を意識した授業づくりという設問における「とても意識している」「やや意識している」の回答においては、一貫校未経験者は69%だったのに対し、一貫校5年以上経験者は97%となっており、一貫校での勤務経験が一貫教育の必要性を実感するきっかけになっている可能性をうかがうことができた。

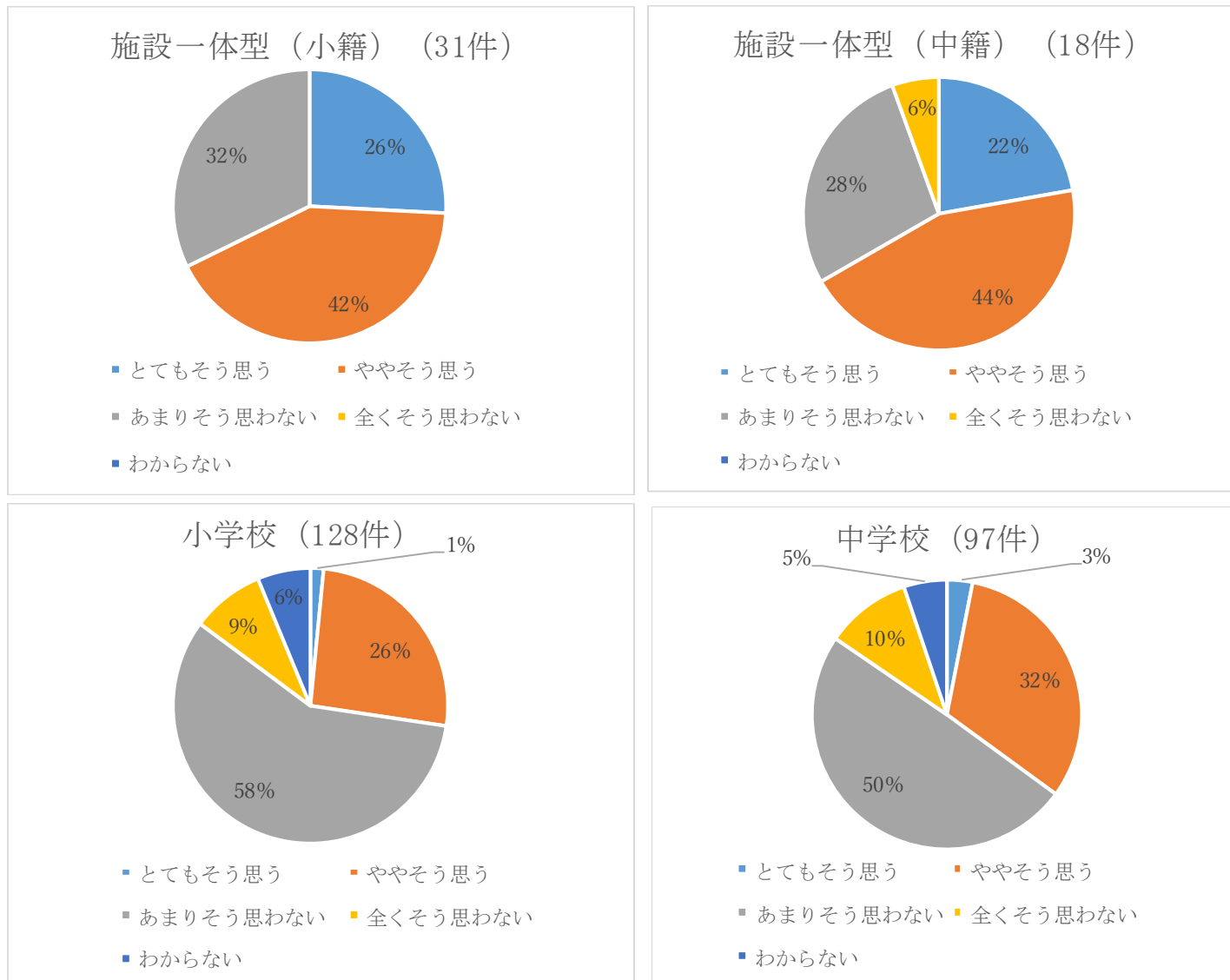
なお、学習指導要領では「小学校と中学校の接続に際しては、義務教育9年間を見通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことを目指した取組が求められる」とされているように、義務教育学校や施設一体型小中一貫校でなくても、義務教育9年間を見通した指導が求められているところであり、本市としても義務教育9年間を見通した指導の重要性を定着させていくための仕掛けが必要であることがわかった。



### ③現在の小中一貫教育の取り組み・現状に関するアンケート結果

「小中連携教育・小中一貫教育の取り組みの現状」「一貫教育を進めている実感」などについて、アンケート実施時点で勤務している学校の施設形態により、教員の感じ取り方に差異があるのかを調査した。（括弧内は回答数）

●今、小中一貫教育に取り組んでいるという実感はありますか。



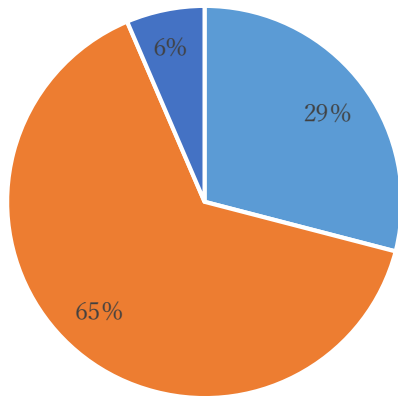
【参考】施設一体型に勤務しながら「一貫教育に取り組んでいる実感がない」とした教員の主な意見（別の設問より抜粋）

- ・ 連携型の小中一貫教育は、非常に意義があり、学びの連続性を確保する意味で、子どもにとっても教員にとっても大変効果的であった。しかし、施設一体型の現任校においては、児童生徒数が膨れ上がり、縦割りの取り組みが困難になったり、体育祭や文化祭といった通常の中学生在が本来体験できるはずの内容が希薄になるなど、矛盾点多すぎる。
- ・ 人数が増えすぎたため本校はほとんど交流していないし、もともと専科制の中学は授業時間を調整することがものすごく難しい、すでに学年や行事で調整したうえで、また異学年の交流時間を…となると、交渉する気も失せる。
- ・ 現在コロナ禍なので、交流はほとんど行われていない。
- ・ 大規模校では小学生と中学生の活動テリトリーがはっきりと分かれてしまっており、幅の広い交流はあまりみられない。
- ・ 校時の違いや職員の人数の多さを理由に意思疎通を図る場が全くといっていいほど無い。

⇒大規模校化により異学年交流ができていない＝「実感がない」と感じている可能性がある。

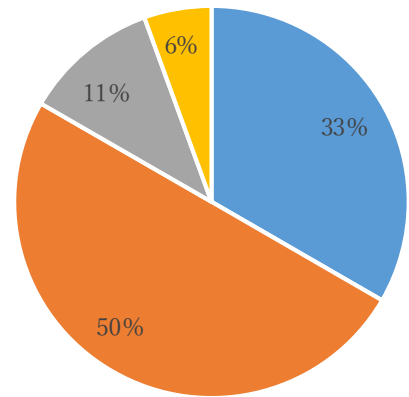
●あなたが現在勤務する学校では、同じ中学校区の小学校と中学校でめざす子どもの姿を設定し、共有できていると思いますか。

施設一体型（小籍）（31件）



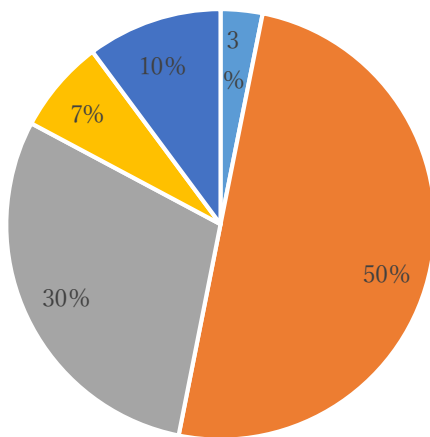
- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

施設一体型（中籍）（18件）



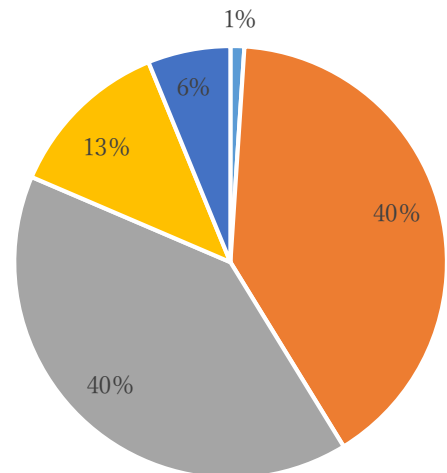
- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

小学校（128件）



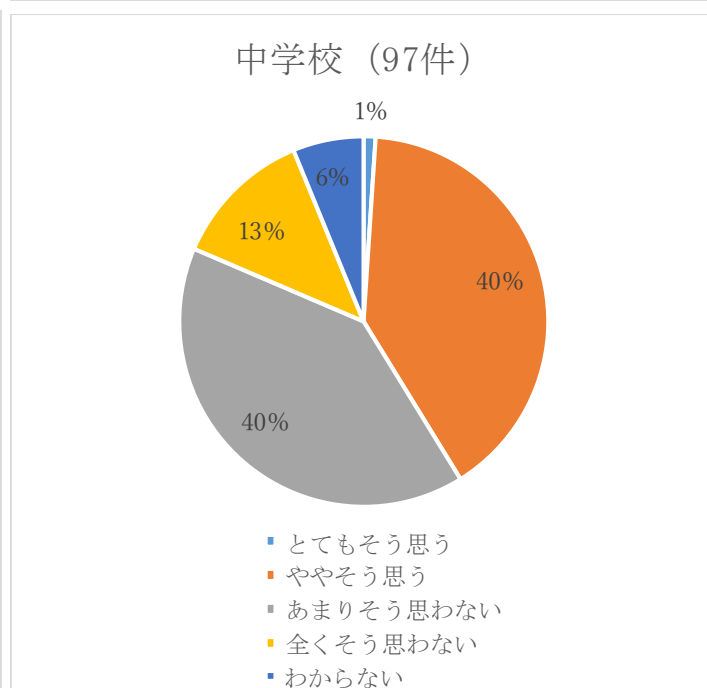
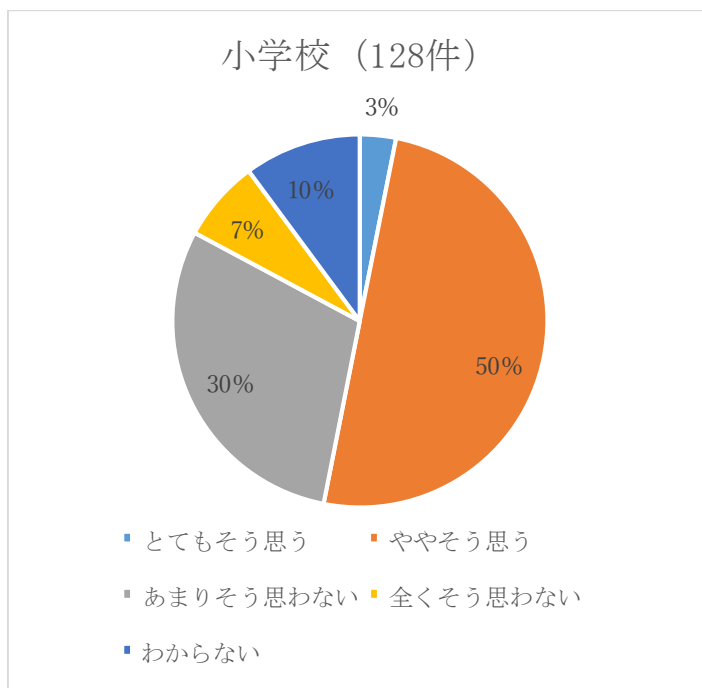
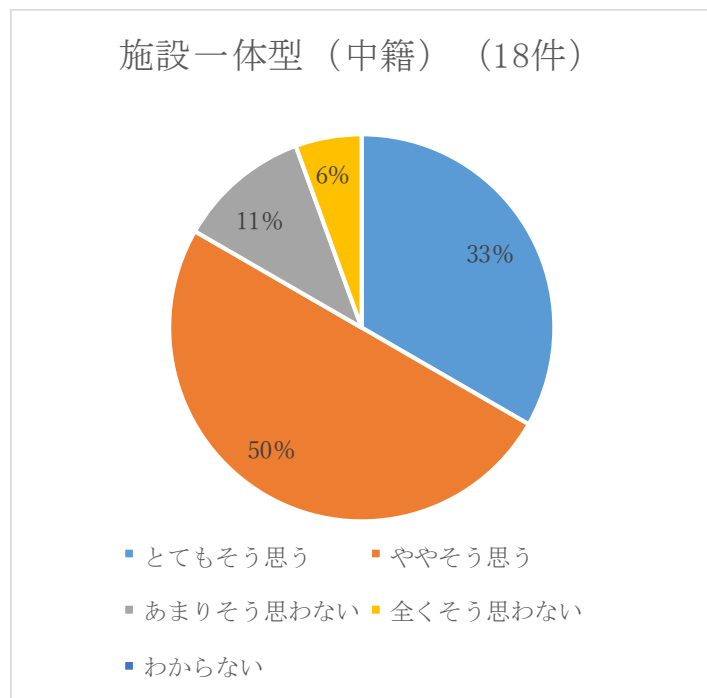
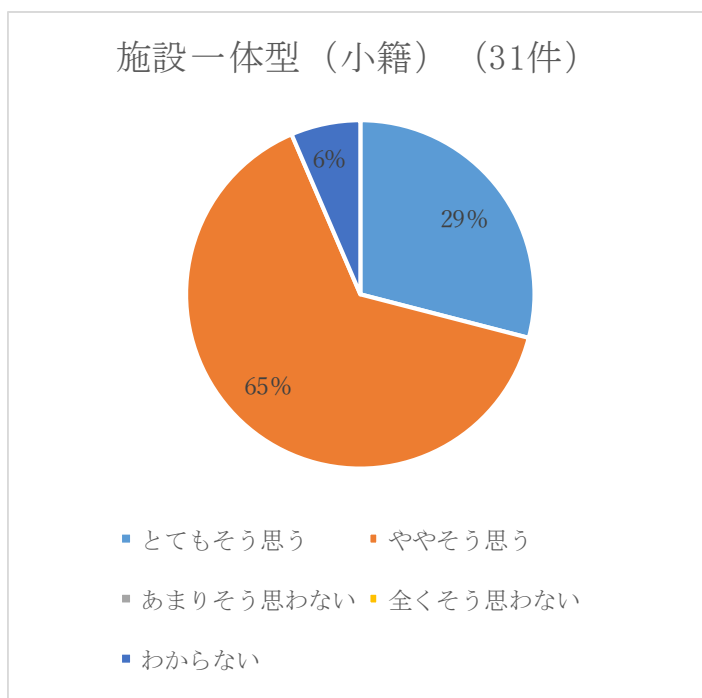
- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

中学校（97件）



- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

●あなたが現在勤務する学校において、小学校と中学校の引き継ぎは十分できていると思いますか。



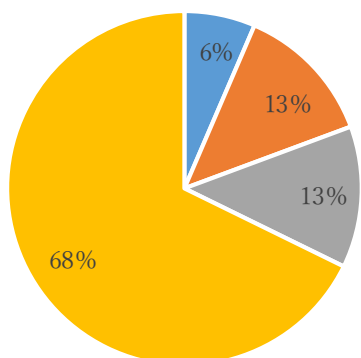
**【備考】**

「目指す子どもの姿の共有」や「小・中の引き継ぎ」については、施設一体型の方が肯定的な回答が圧倒的に多い結果となったが、これは「同じ施設」「校長が1人」という施設一体型の特徴が要因であると考えられる。一方、校区連携型では「学校施設が別々」「学校組織が別々」であり、施設一体型と比べると当然連携がとりづらくなることから、肯定的な回答は下がる傾向であった。

しかし、特に「目指す子ども像の設定」「小学校と中学校の引き継ぎ」については、義務教育9年間で子どもを育てるために必要な要素であることから、全市的に小中一貫教育を進めて行くためには、校区連携型においてもこれらのことを進めていくための市としての仕掛けが必要であることが確認できた。

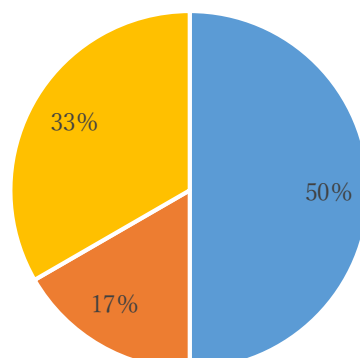
●あなたが現在勤務する学校の中学校区では、小中一貫教育推進に向けた会議を開催していますか。

施設一体型（小籍）（31件）



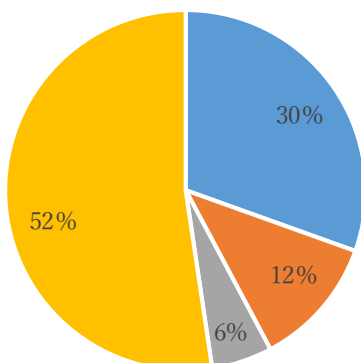
- 定例的に開催している（1学期に1度以上）
- たまに開催する（年1回程度）
- 開催していない
- わからない

施設一体型（中籍）（18件）



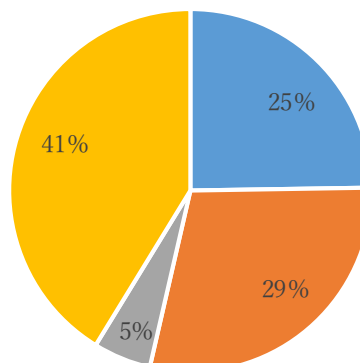
- 定例的に開催している（1学期に1度以上）
- たまに開催する（年1回程度）
- 開催していない
- わからない

小学校（128件）



- 定例的に開催している（1学期に1度以上）
- たまに開催する（年1回程度）
- 開催していない
- わからない

中学校（97件）



- 定例的に開催している（1学期に1度以上）
- たまに開催する（年1回程度）
- 開催していない
- わからない

**【備考】**

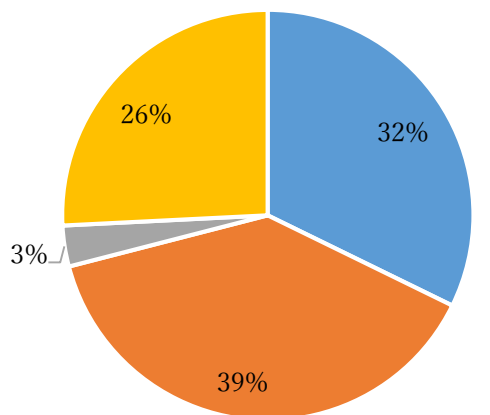
通常校でも「定期的で開催している」という回答が約半数を占めていた。本市では、特に校区連携型中学校区において、校区教研、校区人研、生徒指導担当者・支援教育担当者の会議など、中学校区内で意識的に集まる機会が多いことが要因と考えられる（施設一体型は「校内研修」として小中一緒に実施している）。

また生徒指導担当者は市独自の加配で担任・授業を持たない専任の担当者であることから、生徒指導に関する校区内連携が密に行われていることが影響しているものと推察される。

一方、施設一体型（小籍）が消極的な回答となったことについては理由不明であった。

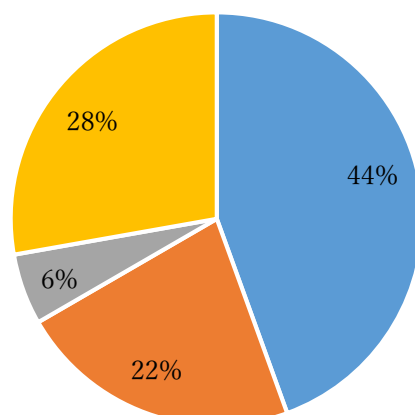
●あなたが現在勤務する学校では、小中のつながりを意識した組織的なカリキュラム研究を行っていますか。

施設一体型（小籍）（31件）



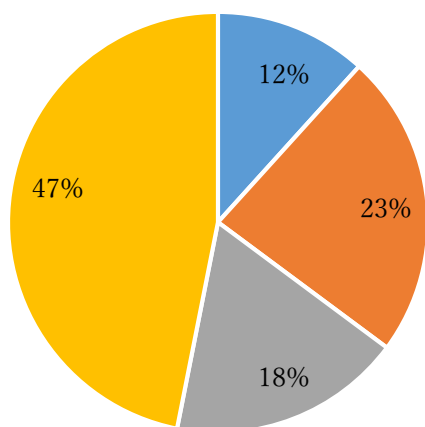
■ 定期的に行っている ■ 行ったことがある  
■ 行っていない ■ わからない

施設一体型（中籍）（18件）



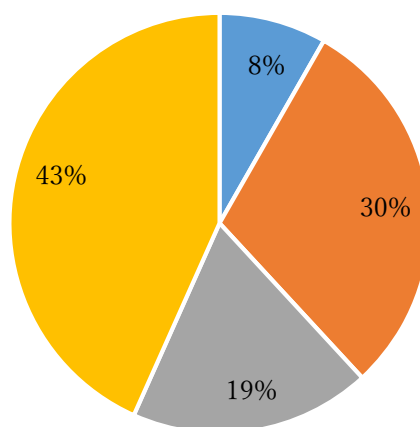
■ 定期的に行っている ■ 行ったことがある  
■ 行っていない ■ わからない

小学校（128件）



■ 定期的に行っている ■ 行ったことがある  
■ 行っていない ■ わからない

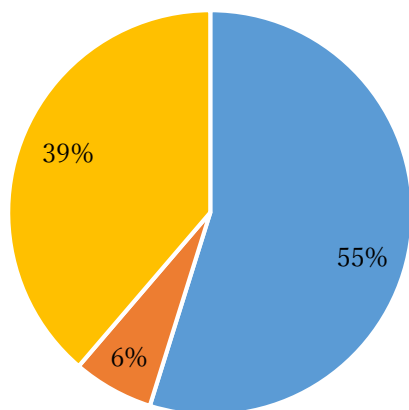
中学校（97件）



■ 定期的に行っている ■ 行ったことがある  
■ 行っていない ■ わからない

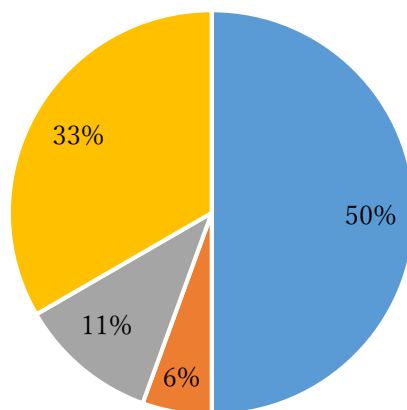
●あなたが現在勤務する学校では、学校だよりやHP等により保護者・地域に対して小中一貫教育のPRを行っていますか。

施設一体型（小籍）（31件）



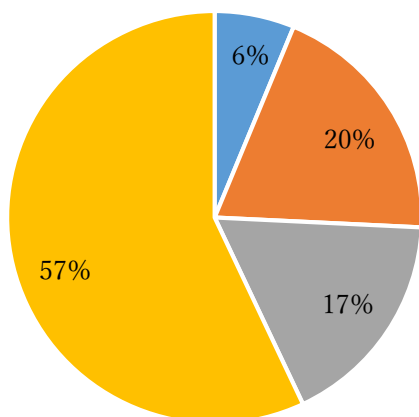
- 定期的に行っている ■ 行ったことがある
- 行っていない ■ わからない

施設一体型（中籍）（18件）



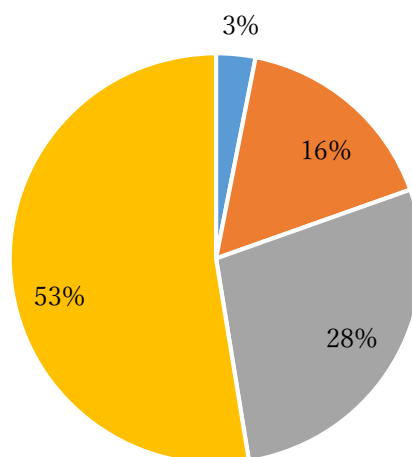
- 定期的に行っている ■ 行ったことがある
- 行っていない ■ わからない

小学校（128件）



- 定期的に行っている ■ 行ったことがある
- 行っていない ■ わからない

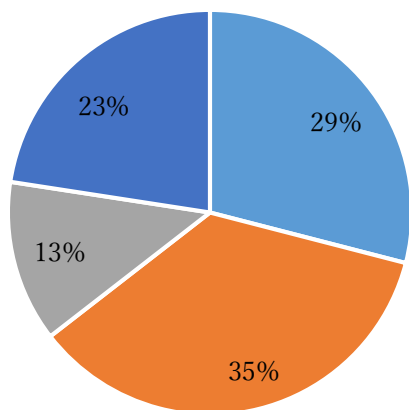
中学校（97件）



- 定期的に行っている ■ 行ったことがある
- 行っていない ■ わからない

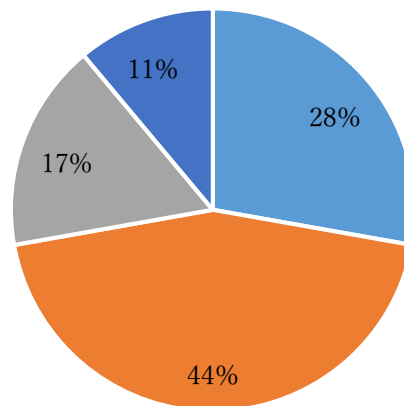
●あなたが現在勤務する学校の中学校区では、小中学校の円滑な接続(中一ギャップや進学への不安の解消)ができていますか。

施設一体型（小籍）



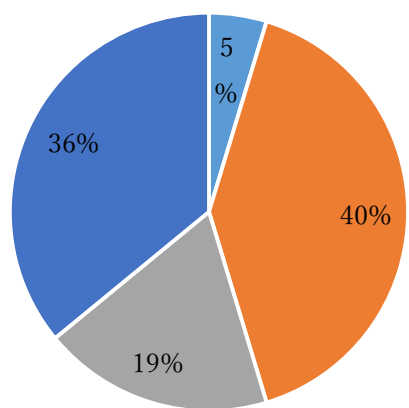
- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

施設一体型（中籍）



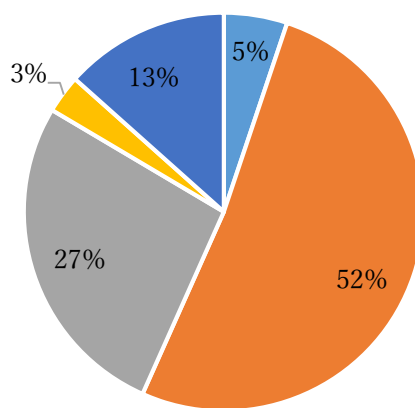
- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

小学校



- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

中学校

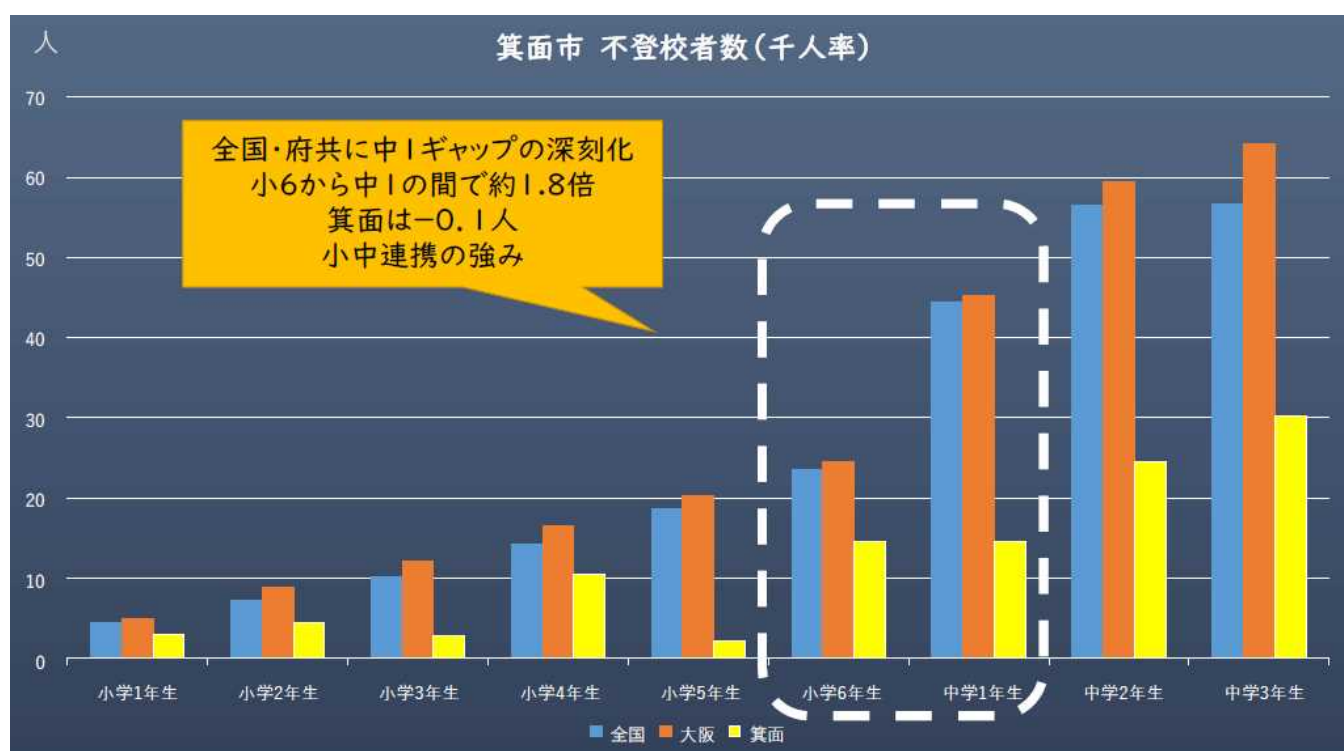


- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない
- わからない

◆ 【まとめ】現在の小中一貫教育の取り組み・現状に関するアンケート結果について

施設一体型小中一貫校で勤務している教員の方が、一貫教育に取り組んでいる・関わっているという実感を得ているということがわかった。この日々の実感や、小中の教員が日常的に関わっていること、また違う校種の児童生徒を日々目にする状況などが、前述の「②小中一貫教育の意識に関するアンケートの結果」につながっているものと考えられる。

一方、「小学校と中学校の引き継ぎ」「小中学校の円滑な接続」については、校区連携型の小学校・中学校においても半分以上が肯定的な回答であった。これは、各教員がこれまでも引き継ぎの重要性を意識してきたこと、また生徒指導主事を中心に中学校区内で密に連携されていることが要因であり、この連携の成果として、本市では「中学校1年生になった際の不登校」が少ない傾向にあるものと考えられる。

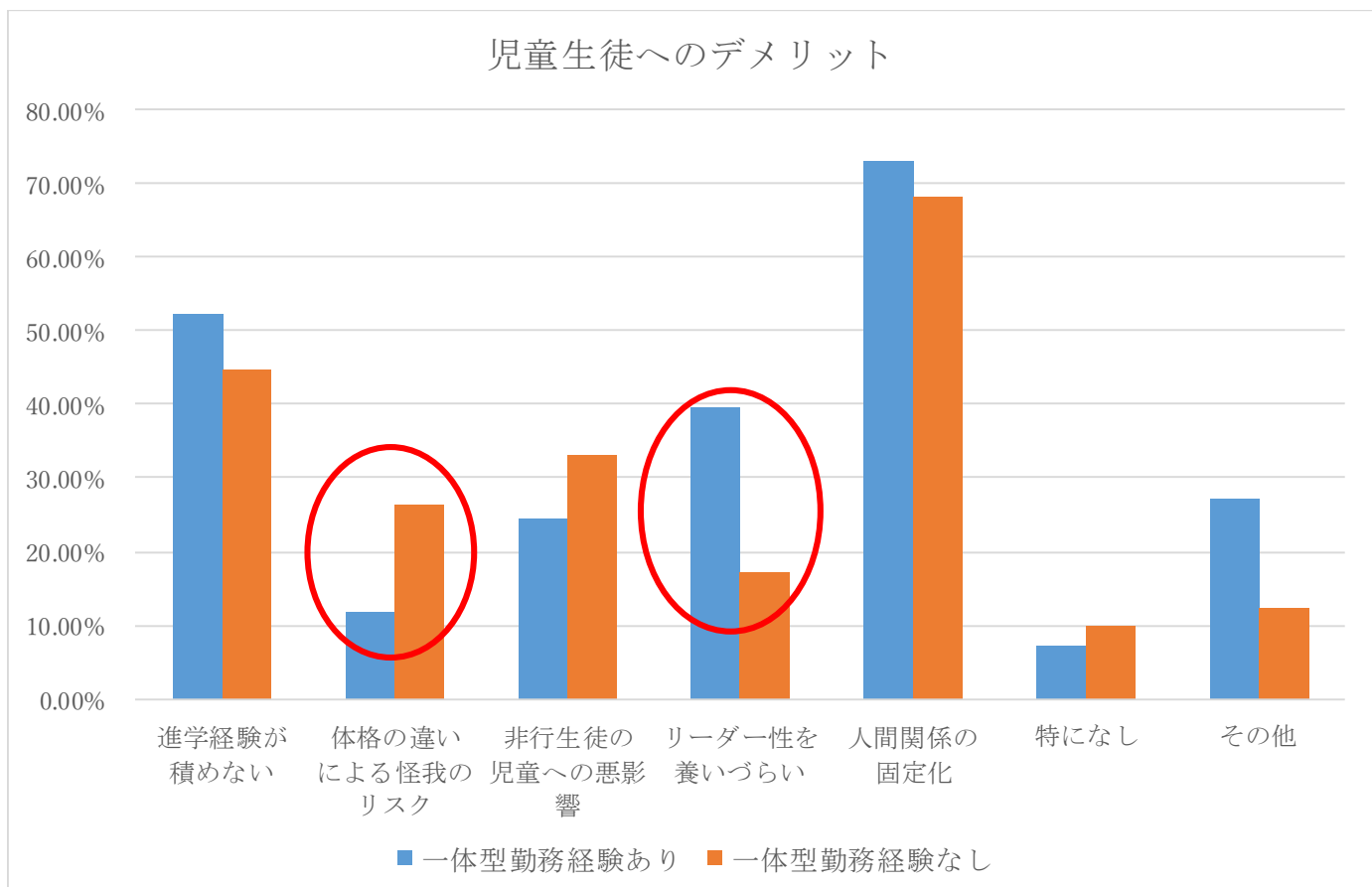
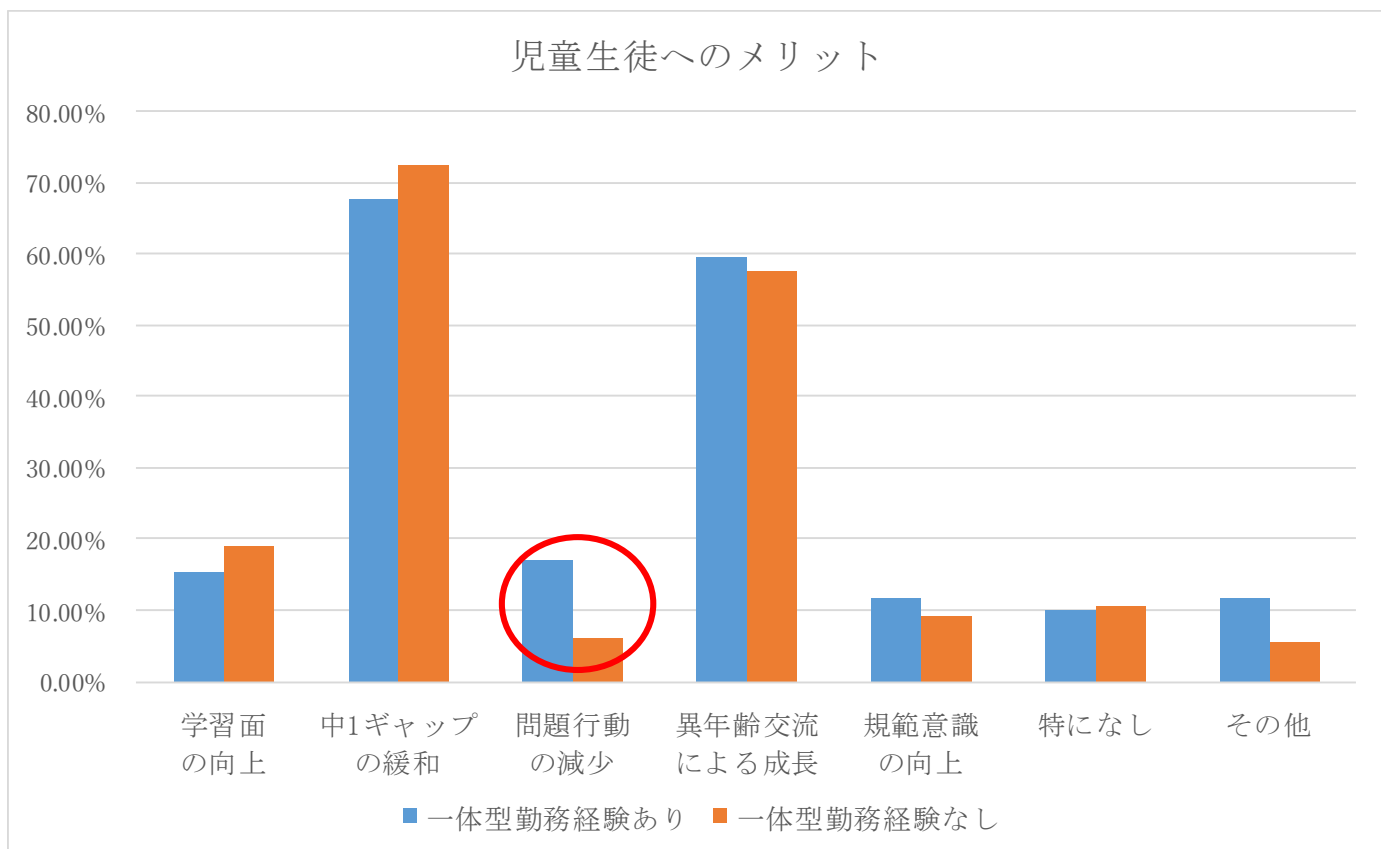


R4. 11. 29 第2回不登校担当者連絡会資料より

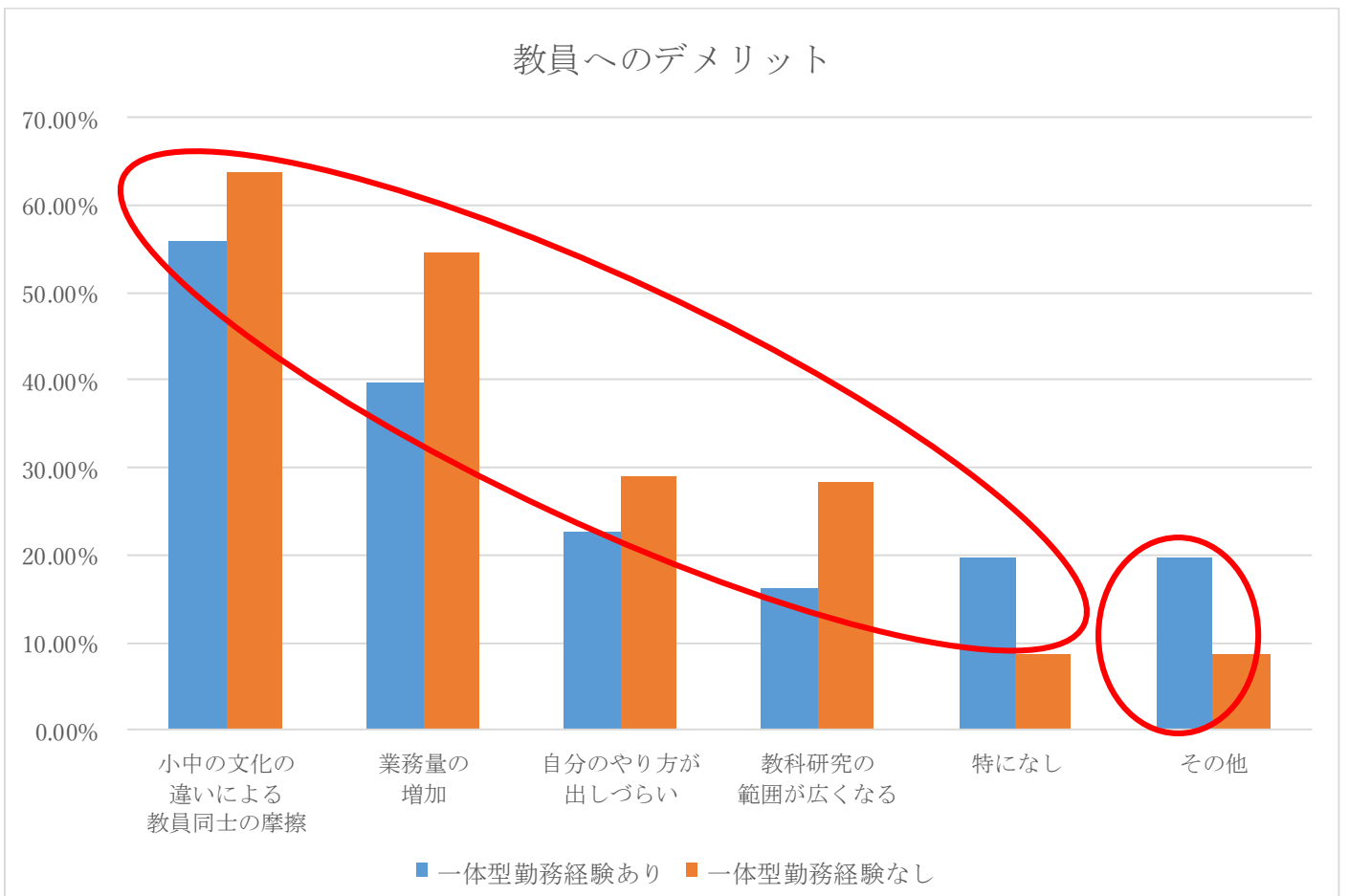
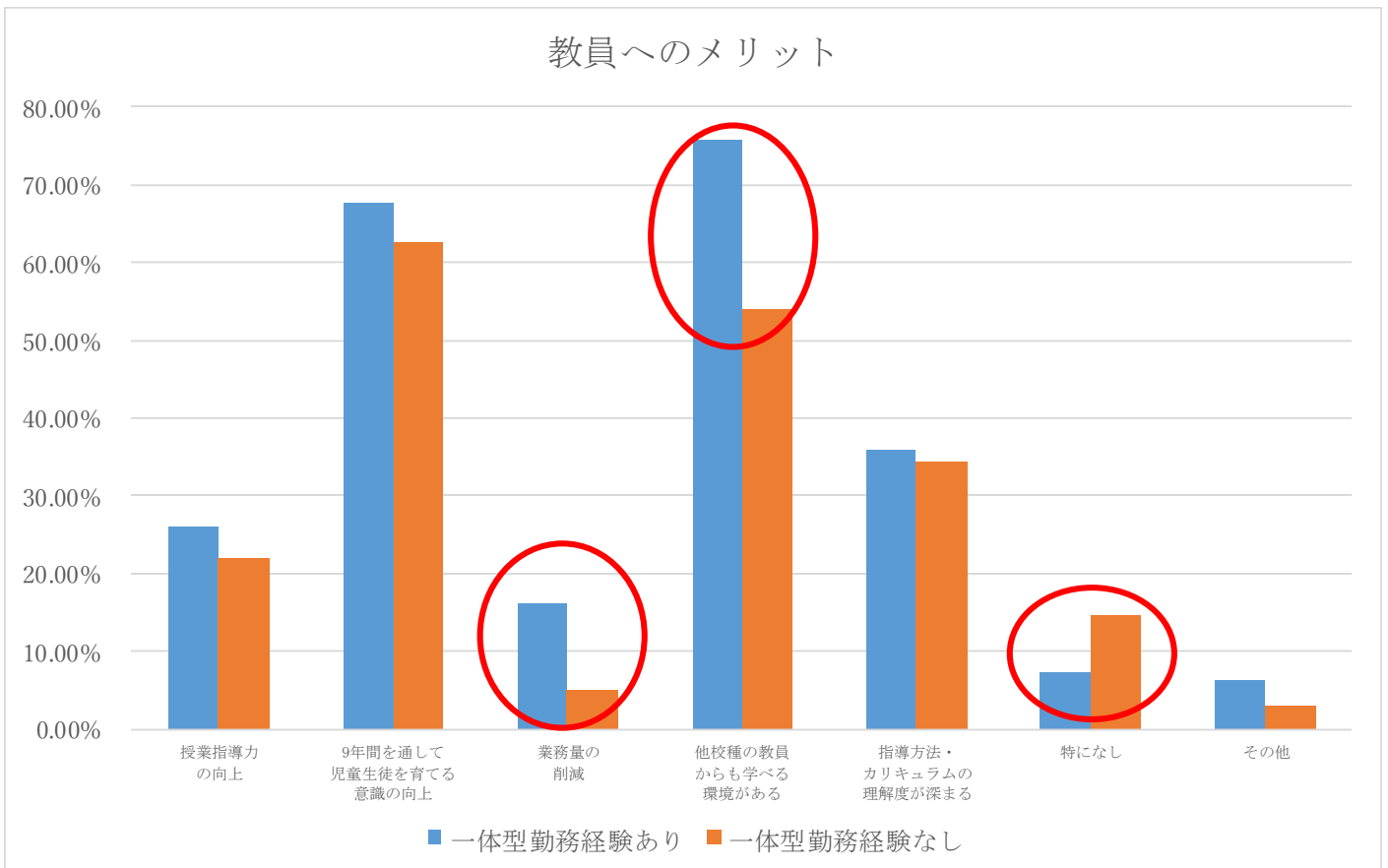


#### ④施設一体型小中一貫校のメリットデメリットに関するアンケート結果

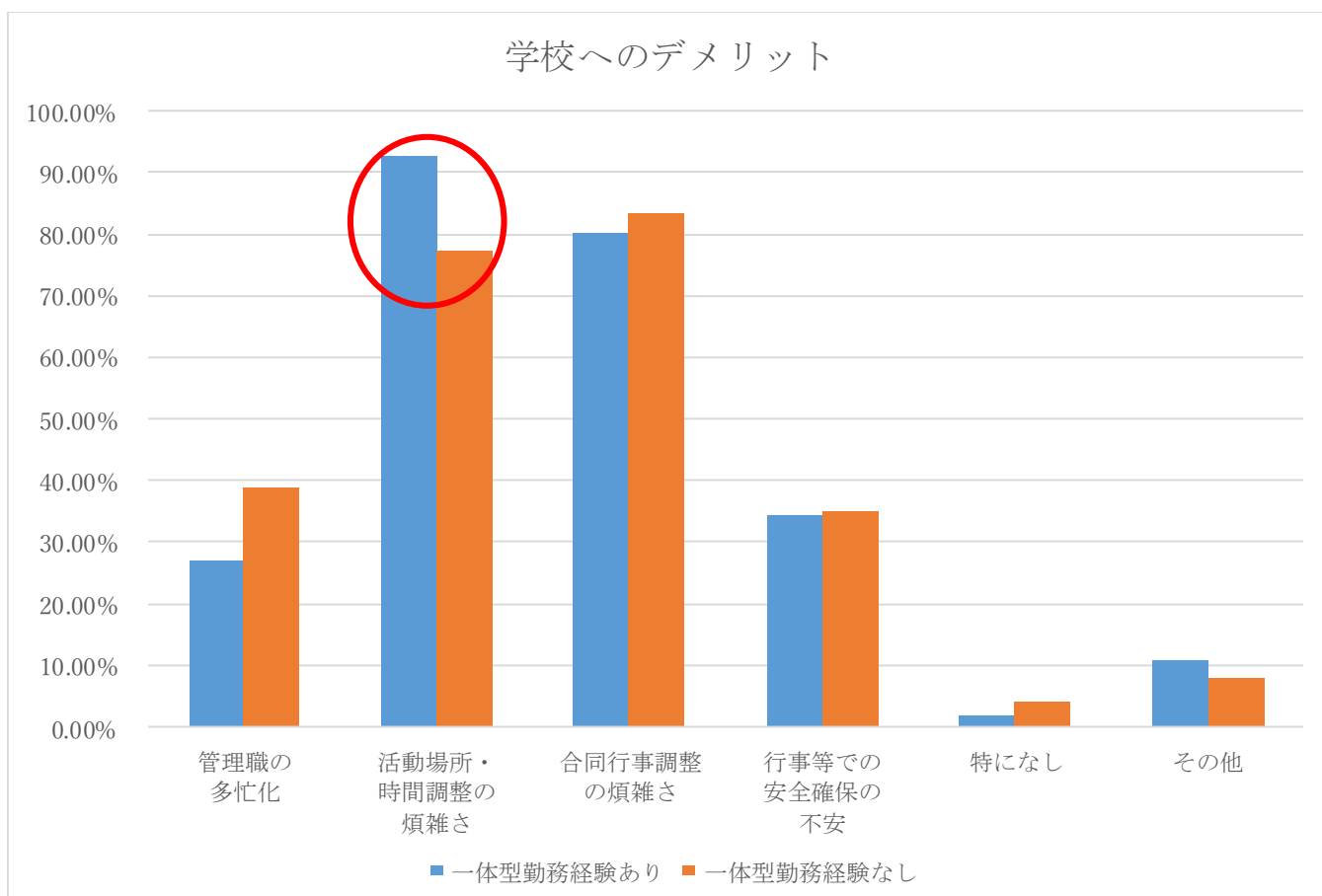
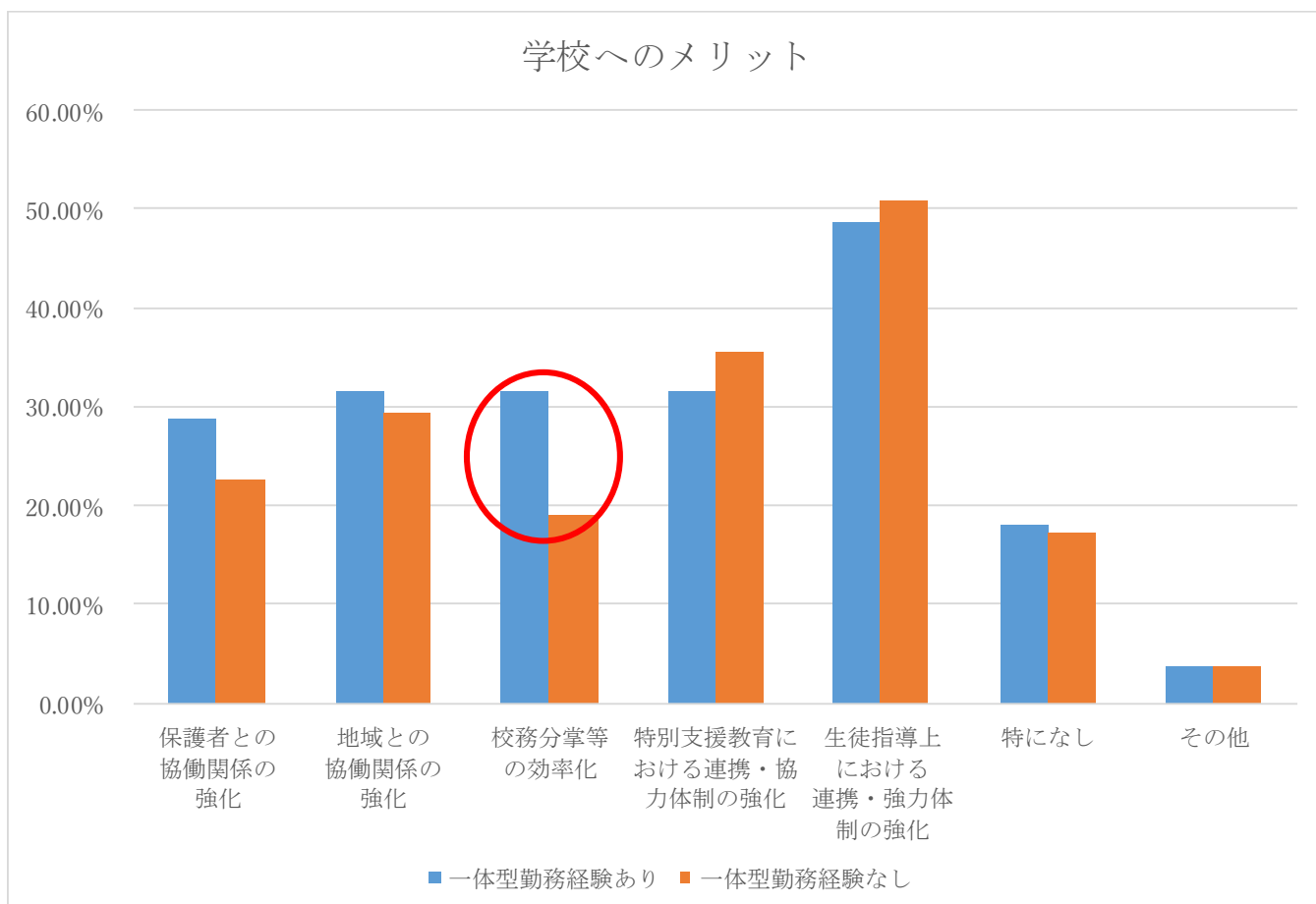
●施設一体型小中一貫校での教育は子ども達にとってどのようなメリット・デメリットがあると思いますか（複数選択可）。



●施設一体型小中一貫校での勤務は教員にとってどのようなメリット・デメリットがあると思いますか（複数選択可）。



●施設一体型小中一貫校は学校にとってどのようなメリット・デメリットがあると思いますか  
(複数選択可)。



## ◆ 【まとめ】施設一体型小中一貫校のメリットデメリットに関するアンケート結果について

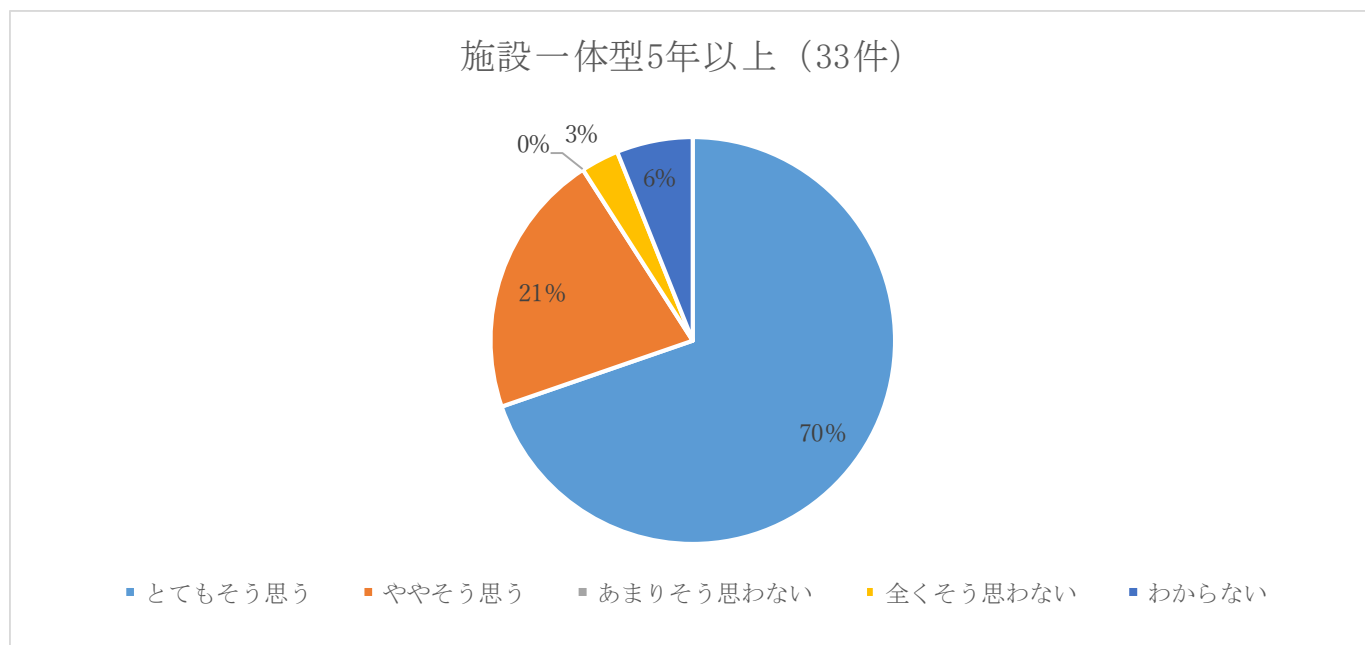
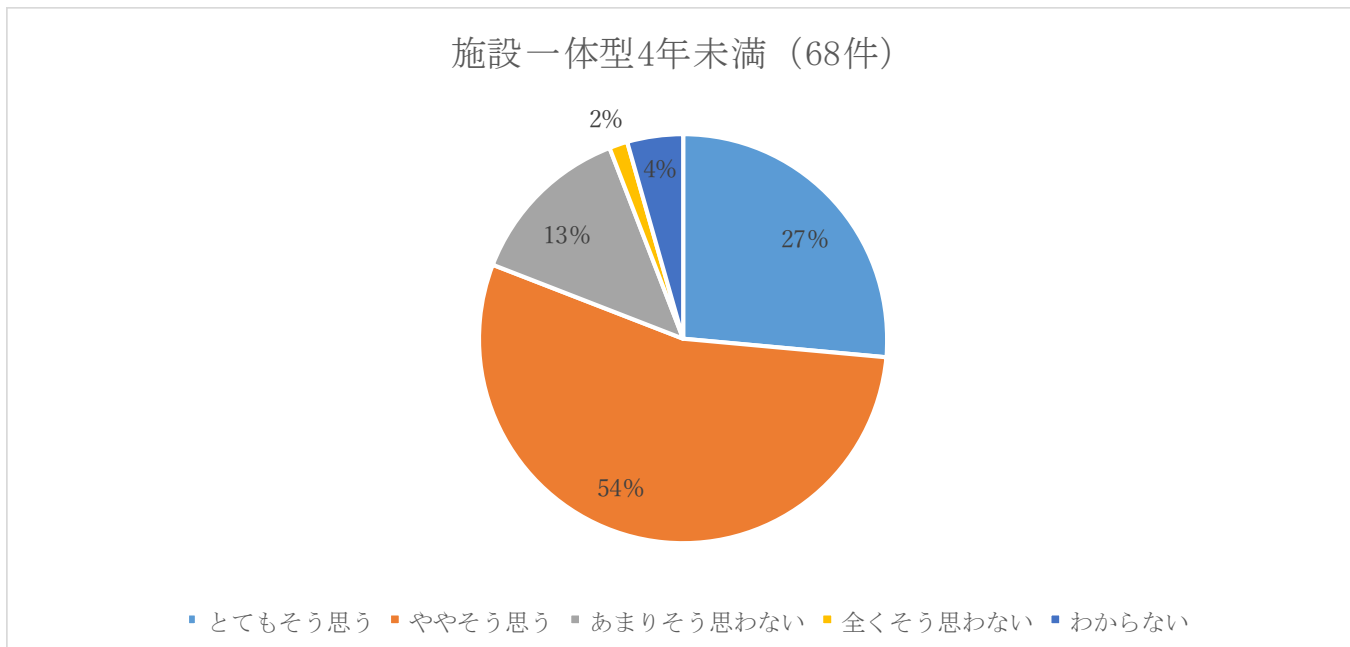
「施設一体型小中一貫校勤務経験あり」群と「施設一体型小中一貫校勤務経験なし」群を分け、それぞれの群における選択率を棒グラフで表示した。その上で、それぞれの群にて大きな違いがある箇所を赤丸にて表示した。

- 児童生徒へのメリットで「問題行動の減少」を選択した教員は、勤務経験あり群では17.12%、勤務経験なし群では6.13%と大きく乖離が見られた。また問題行動の減少を選択した教員の自由記述欄には「登下校や隙間の時間に中学生が小学生を目にすることは、非行防止や中学独自の雰囲気になることを一定制御していると思う」「上の学年が下の学年の子どもたちに優しく接する場面を見ることができる。下の子のロールモデルになろうとすることは、教育的効果があると感じる」のような意見が多く見受けられ、特に中学生の問題行動の減少に効果があると感じている教員が多い印象を受けた。
- 児童生徒へのデメリットで「体格の違いによる怪我のリスク」を選択した人は勤務経験あり群で11.71%、勤務経験なし群で26.38%となっており、勤務経験あり群の選択率が大きく下回る結果となった。これは、彩都・とどろみでは学年に応じてフロアを分けているため、実際に勤務した際に、想像していたときよりも危険性を感じなかった教員が多いことを示しているものと考えられる。一方、「リーダー性を養いづらい」の選択においては、勤務経験あり群の選択率が大きく上回る結果であった。実際に施設一体型での勤務を経験している教員からは、特に小6のリーダー性の育成、小6での役割を持たせるということが困難であり課題だという回答が目立った。
- 教員へのメリットでは「業務量の削減」と「他校種教員から学べる環境」について勤務経験あり群が大きく上回る結果であった。業務量の削減については、設問28の学校のメリットに関する回答結果にて、実際に勤務した教員の3人に1人が「校務分掌の効率化」を実感されていることから、校務分掌の効率化により業務量削減を感じているものと推察される。また「他校種教員から学べる環境」については、75.68%もの教員がメリットだと感じており、勤務経験あり群・なし群には20%以上の乖離があることから、「他校種教員から学べる環境」については実際に勤務することで初めてメリットだと実感するケースが多いことが読み取れた。
- 教員へのデメリットについては、多くの選択肢において勤務経験なし群が上回る結果であった。この結果から、施設一体型での勤務経験のない場合でも、噂などにより実態以上に大きな不安をいただいていることがうかがえる。  
ただし、勤務経験あり群でも多くの教員が「小中の教員摩擦」「業務量の増加」を課題として捉えており、今後仮に施設一体型小中一貫校を新設する場合は、このデメリットの部分を一定解消する対策が必要となってくる。また、勤務経験あり群の「その他」の回答内容には「施設が自由に使えないことの教員のストレス」「卒業式がないことの教員のストレス」「小学校高学年に目標を持たせづらいことへの教員のストレス」「学校規模が大きく連携できないことへの教員のストレス」など、『通常校ではできるが一貫校ではできないストレス』についての具体的な事例が記載されていた。
- 学校へのメリットについては前述のとおり「校務分掌の効率化」の選択肢について、施設一体型勤務経験あり群が上回っていた。デメリットについては勤務経験あり群の「活動場所・時間調整の煩雑さ」の選択率が92%であり、現在の施設一体型において非常に深刻な課題となっていることがわかった。

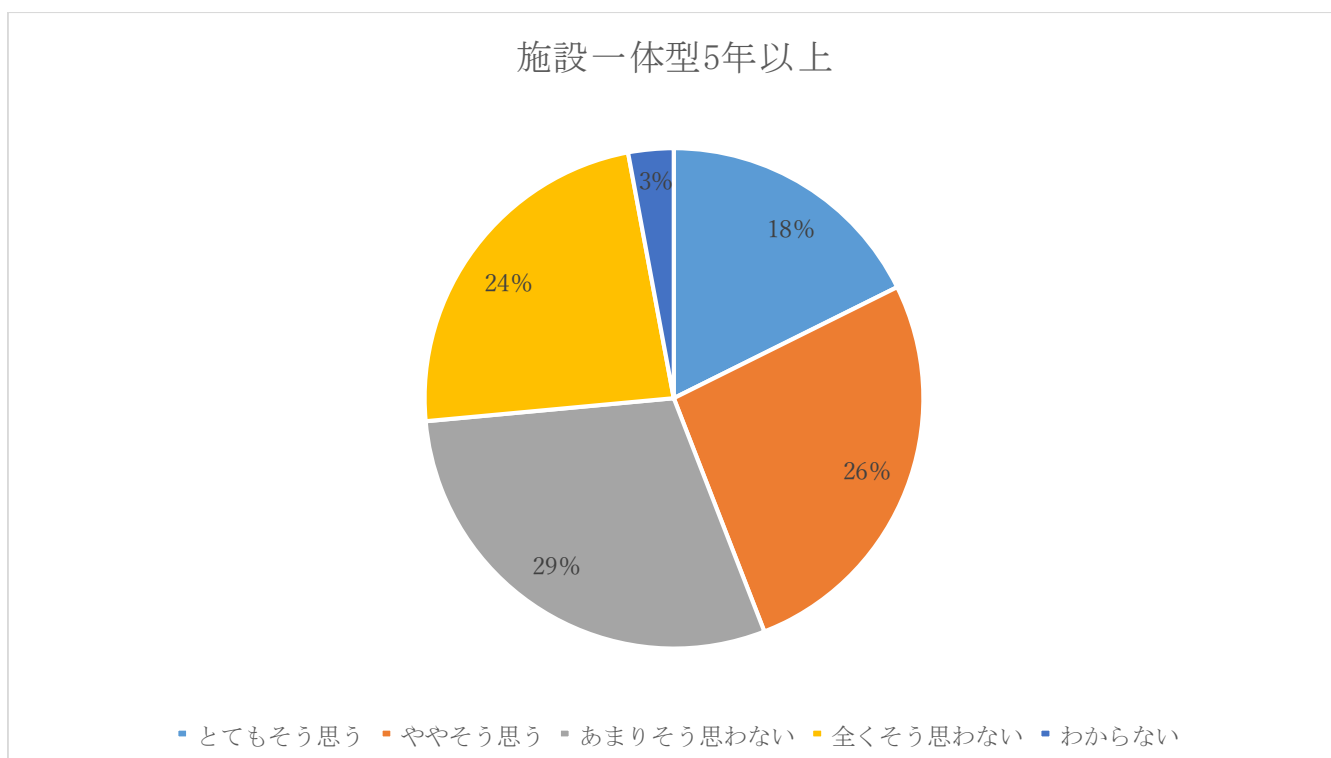
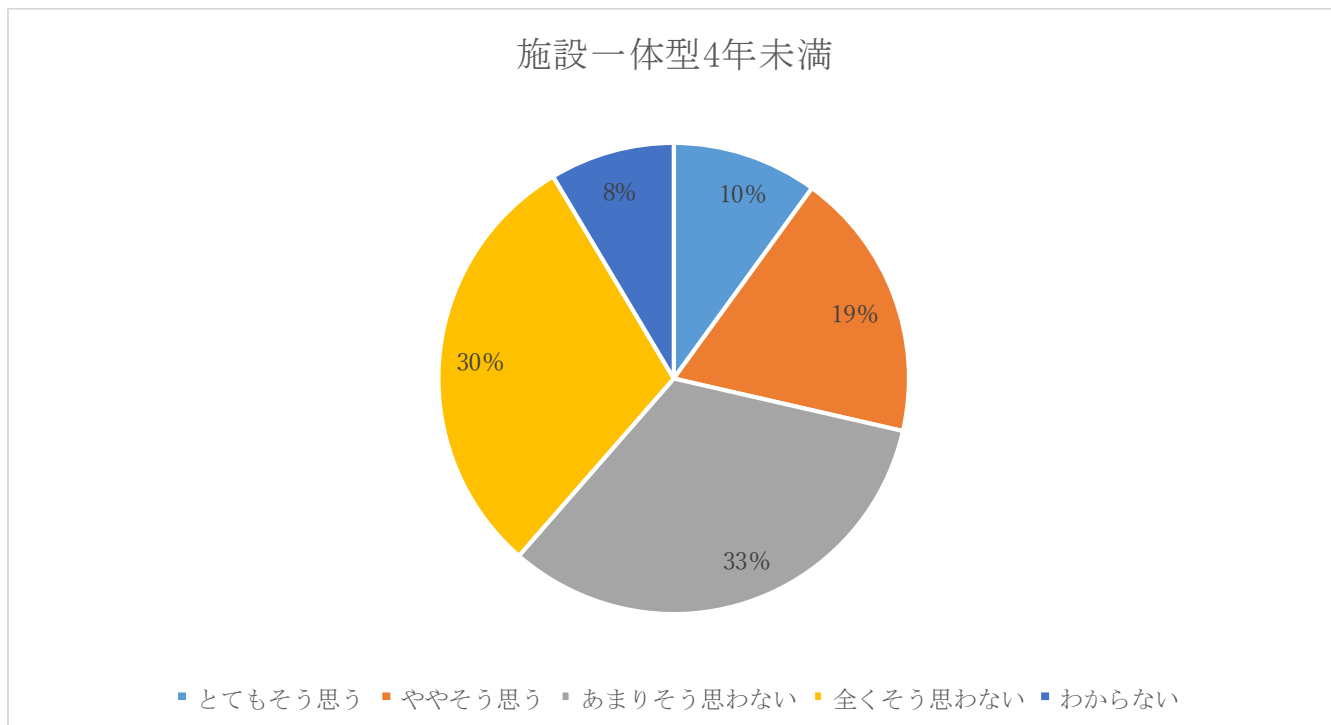
### ⑤施設一体型小中一貫校を勤務することで感じたことについてのアンケート結果

以下の設問は、施設一体型小中一貫校での勤務経験がある教員のみを回答の対象とした。括弧内は回答件数。

●施設一体型小中一貫校で勤務することで、自分と異なる校種の指導方法やカリキュラムについて、理解度が深まったかと思いませんか。



●施設一体型小中一貫校は、校務分掌等の効率化、教職員の教材研究や授業準備の負担軽減につながると思われますか。



- その他、施設一体型小中一貫校の良いところ、悪いところ、気づいたことなどを教えてください。

※誤字と思われる表現もそのまま掲載しています

1	「業務改善」「業務軽減」がしやすい。
2	幅広い世代の人たちから刺激を貰えるが、先述した通り大きく異なる二つのシステムを合体させることに無理がある。中高一貫とは全く違う。
3	<p>×行事、場所の融通が利きにくい。</p> <p>×場放課後の地域でのトラブルがある。</p> <p>●義務教育期間での児童の成長を見届けることができる。</p> <p>●兄弟関係から、家庭状況等の情報共有ができる。</p>
4	一貫校になると、人が多くなるので、校務分掌部会は、学期に1回程度にして、一人一役などして、一人一人の負担をさらに減らして効率よく校務が回っていくようにしたらよいと思う。小と中の教員と一緒に仕事をする機会は、とても貴重で、お互いの働き方の理解につながる。
5	校時が違うので、休み時間に授業をせざるを得なかったり、子どもたちに窮屈な思いをたくさんさせてしまっている。 チャイムが鳴らないので、全体での規律が高まらず、切り替えが非常に難しい。
6	<p>[良いこと]</p> <p>教科指導については、実際に数学から算数の授業を担当していたが、授業者としても数学・算数の系統立てた指導をすることができた。卒業生や保護者からも「数学の先生が、算数の頃から（数学とのつながりを意識しながら）教えてくれて、算数と数学が密接に結びついていることを知ることができたり、中学生になって帰って算数の内容の重要性を認識することが出来た。」という意見も多くあった。これは公開研究授業を基にして、日本数学教育学会でも小学校籍・中学校籍の教員と共同で発表をしたが、全国の小中学校の教員から驚きの反応があった。</p> <p>[悪いこと]</p> <p>とにかく校種間の温度差が激しい。単独校種の教員免許しかもっていない教員ほど、偏っている。定期考査など、進路選択に向けて大事なものでも、積極的でない。校務分掌でやるべき業務が多すぎる。低学年に配慮するあまり、生徒・児童がそれぞれやりたいことができない。それは生徒からも苦情がでていた。</p>
7	施設一体型の小中一貫校は、デメリットが多すぎると感じます。子どもたちにとって中一ギャップを無くすこと以外にメリットが少ないので、できれば小中は別々にしてもらいたいです。
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間の子どもの姿が見える、教科研究しやすい、小中の教員の交流（文化の違いを理解）、子どもたちの交流</li> <li>・時間や場所の設定が難しい、行事の設定が難しい、小中の教員の相容れない部分が出てくる</li> </ul>
9	教員の数も子どもの数も多いため、自分が担当学年以外で何が起きているのか、把握できない
10	授業を核にして小中の教員がつながれるし、お互いに刺激があるのでとても良い。 一方、お互いの教育文化をあまりにも固執しすぎると意見が交わることがないし、職場環境も良好とは言い難くなる。小中お互いの教員がどこまで「小中一貫の文化」を意識して構築できるかが重要だと考える。
11	施設一体型の良さを何か見つけようと数年勤務したが、見つけることができなかった。悪いところ、気付いたところはここより前のアンケートに記入しました。が、ほんの一部です。

12	異年齢で交流する機会が十分に確保されている状況で、お互いの顔や名前を知っていて、自発的に交流できる児童生徒の関係性は、施設一体型の非常によいところだと思いました。難しかったところは、5・6年の委員会活動と中学生の委員会活動のすみわけで、高学年のうちにリーダーとなる経験をどう積み上げていくかが課題に感じます。
13	とどろみで6年はたりましたが、1学年1クラスだったときは、縦割り活動もさかんで、アットホームな小中一貫校ならではのいい雰囲気がありました。徐々に人数が増えてきて、縦割り活動もなくなってきてからは、あまり小中一貫の良さが見られなくなりました。中期ブロックでの取り組みなど、小中のつながりを大切にしてきましたが、それも、人数が増えていくにつれて、場所など物理的に難しいと感じます。また、プールや体育館は1つしかなく、時間割の調整も難しかったです。
14	中学校の文化を知れたこと
15	別の回答にも書いているが…。2つの学校が1つになっても、校舎やグラウンドなどの施設や用具等は2校分必要。教職員の交流、生徒情報の情報交換はかなりスムーズかつ一緒に考えられるので良い。小学校の教材研究への熱心さに触れることができ、自分の授業を見直すきっかけとなった。一貫校の人間関係はずっと変わらないことのメリット・デメリットがある。9年のクラス替えに小学1年からのトラブルを引継ぎしなければ、保護者とトラブルになる。逆に学校に信頼を置いてくれるとずっと協力的である。保護者はどんなことも含めて一貫と思っているので、一貫したシステムが必要となってくる。一貫校に勤務になった場合、ギャップを受け入れる必要がある。はじめは相当なストレスを感じる。また中籍、小籍とすべてを区別する人、柔軟に考えない人がいると、学校は回らない可能性がある。自分は当時の職員に恵まれていたと思う。中学校経験より一貫校経験が長くなったので、中学校のやり方に戸惑いを感じるようになっていく。
16	施設が足りない。行事が面白くないです。
17	異年齢・異学年交流は、児童・生徒にとってとてもいいことだと思います。しかし、児童・生徒数が多くなりすぎると、様々な交流が単発で終わってしまったり、できなくなることがあります。
18	・今までずっと小学校だったが、中学校的な文化(部活や行事など含め)を知ることができた。 ・小学校と中学校で動きが異なることもあるため、会議日程を組むのは大変。
19	小学校の先生と一緒に授業を組み立てることで、自分の知識が深まったこと。発見が多かった。
20	市側の節約かなと思う。図書室や保健室も1つで良いので。メリットがあまり見当たらない。グラウンドまで遠くて不便。電話やパソコンも少なく不便。
21	教材研究の負担軽減にはならない。行事を見直しすることがなかなかできない。
22	自分の授業のあり方などは振り返ることができるところは良いところだが、結局は、小学校と中学校の動き方の違いがあるので、なかなか一緒にできないことも多いように感じている。
23	人数が増えすぎて、小中一貫教育をするキャパを超えている。今はメリットなし。
24	一例) 校時の違いや職員の人数の多さを理由に意思疎通を図る場が全くといっていいほど無い。意思疎通の場の設定がたくさんできるのであればとても良いと感じている。
25	自分が働いていたころの施設一体型は規模も小さく小中の教員の中もよかった。文化も違いも感じる時もあったが、そもそも初任だったことと、学級数が少なかったことで「学校として協力する」ことができていたと思う。 規模が大きくなった施設一体型は経験がないが、軋轢などはないのか不安



26	<p>小学校でしていること、中学校でしていることをどちらも行うので、年間の学校行事に余裕がなさすぎる。</p> <p>中学校の時程に合わせないといけない部分がある。(チャイムが鳴らせないなど)</p> <p>部活動の関係などで、放課後の運動場の開放がない。</p>
27	<p>良い：中学で学ぶ内容とのつながりを意識して授業を作るようになった(前の学年や次の学年の内容を確認するようになった。)</p> <p>中学校の先生の様子(仕事内容や学校、教員、子どもへの態度など)を知れた。</p> <p>悪い：施設(体育館・プール)や道具が足りない。会議や行事が組みにくい。チャイムが授業中になる。中学校教員との摩擦や衝突</p>
28	<p>小中の違いを理解し、お互いの良いところを取り入れられるから。例えば、小学校は中学校の生徒指導の在り方、中学校は小学校の教科研究に対する取り組み姿勢を学べる。施設一体型から転勤してもそのことを意識してもらいたい。</p>
29	<p>施設一体型のメリットは同じ校舎内に小中学生がいることで、児童生徒のやさしさを出せる場面ができること。しかし、それも700名を超えてくると、そのような行事も持てなくなり、メリットはなくなる。500名程度まででずっと学校が保てるならば作る価値はあるかもしれないが、さらに少人数になれば、クラス替えができないなど仲間関係も固定化するなどのデメリットも出てくるので、少なすぎるのも問題が多いのではないだろうか。</p>
30	<p>相互理解や相互コミュニケーションを意識すれば、居ながらにして連携できるメリットはなんにも代えがたい。</p>
31	<p>子どものニーズには合っていないと思う。</p> <p>行政の都合が優先されていると思う</p>
32	<p>中学生の制服廃止の動きもある中、制服を5年生から着用するのは、途中でサイズが合わなくなる場合も多いし、小学生と中学生の判別もできないし、やめた方がいいと思います。各学年1クラスずつぐらいの小規模なら小中一貫でも有意義な場面も多いかもしれませんが、大規模になると、何をするにも人数が多すぎて、小中の調整や児童生徒の実態把握や、教職員の連携や共通理解など、時間を要したり困難なことの方が多く、デメリットの方が多いと感じています。</p>
33	<p>良いところは上級生が下級生の面倒を見たりすることによって責任感が生じるところで、悪いところは小規模であれば人間関係が固定化されてしまうところだと思います。</p>
34	<p>すべての取り組みにおいて、「一貫校であるから」との理由でその特殊性を正当化するのは無理がある。前期と後期の神殿の発達段階には大きな開きがあるのは避けられない事実であり、それぞれに適した体験を、質、量ともに保証しなければならないと思うから。</p>
35	<p>子どもの成長が、身近で見られるのが良い点。児童生徒数の関係で、施設が使いにくくなるのが悪い点。時間的にも物理的に大変である。</p>
36	<p>児童数が増えてくると、施設が狭くなり、子どもの学習環境が整わない。小規模校では、異学年交流などが充実し、教員も互いに学ぶ機会があると感じます。</p>
37	<p>教職員の連携で教科の専門性が高まる</p>
38	<p>時間割の組み方が難しく、特に中学籍で他学年にまたがって教える先生の負担(例えば、中1を教えたあと、中2を教えてまた中1を教えるなど、教材や教具の出し入れに時間がかかる)が増える。体育館やプールなどの施設が足りないので、まず施設を整えてほしい。</p>
39	<p>どのような学びや育ちをして、中学校に来るのがよくわかった。小学校の先生と知り合いになれたことが財産になった。小・中学校の文化で相容れないところがあるのは否めない。</p>

40	<p>小学校中心で周っているように思います。</p> <p>たとえば、警報や大雪等の臨時の対応相談も小学校を先にするのは仕方がないとしても、声を上げなければ中学校のことに触れずに終わろうとされることが多々ある。</p> <p>他の中学校であるならば、中学校3年生の進路関係を優先して行事が組まれるが、小学校の都合が優先されてしまう事がある。</p>
41	<p>とにかく小中の調整が煩雑で多忙になる。特にブロック制をとることで、会議や行事が増え、かなりの無理が生じる。</p>
42	<p>小中一貫校は、小学校でも中学校でもない。そのため、小学校の定数、中学校の定数をそのまま当てはめるだけでは、よさを引き出すことは難しいと思う。施設一体型小中一貫校に何を期待するのか、そのための指導体制をどのようにするのか、カリキュラムはどうするのかなどの課題を明確にして、体制を作ることが教育委員会の責任ではないでしょうか。現在の施設一体型小中一貫校は、現場に丸投げしすぎにように感じる。掛け声だけでは進めることはできない。</p>
43	<p>施設一体型小中一貫校の管理職に巨大な組織を経営する能力が求められる。</p> <p>構造的に小学校の方が教員数が多くなり、どうしても中学校教員の意思や中学校側の事情が考慮されないことが多い。</p>
44	<p>現実的には校務が忙しくて、研究の一環や生徒指導を担当していた関係上連携した感はぬぐえないが、生徒を9年間という長いスパンで成長を見られたことは、深い理解へとつながった。ただ、生徒指導を担当していたというのが大きい。</p>
45	<p>(これまでの回答の文章をご参照ください。)</p>
46	<p>この設問までの理由で述べたので、読み替えてください。</p> <p>小中一貫教育は、施設一体型でないと思えます。大人も子どもも互いの校種を日常的に見て、学校としてどんな子供を育てるのが共有できていること、一緒に苦勞を乗り越えていくことが大切なのではと思う。</p>
47	<p>通常の小学校の施設と中学校の施設を合わせた以上のグラウンドや施設が必要。</p>
48	<p>児童生徒、保護者、教員で9年間の成長を見守ることができる。ただ、学校の規模は適正なサイズを望む。</p>
49	<p>施設が共有で使いづらい。時程や行事の違いが大きい。</p>
50	<p>いい点よりも、校舎や活動場所の制限、大規模すぎるため交流、統制が取りにくいことが気になりました。他校種への批判的な意見は一緒に働くことによって、尊敬に変わりました。決まった条件の中で現場の先生方は本当に工夫されてよく頑張ってもらっています。</p>
51	<p>行事がどうしても小学校と中学校では位置付けが違うため、行事に対する意識の重みが違うと感じます。(特に運動会)</p> <p>会議の持ち方も難しくてあるため、工夫する必要があると感じています。</p> <p>人数がとても多いため、様々な計画が大変だと感じました。</p> <p>子どもたちを9年間、学校としてみることは素敵だと思いました。</p> <p>また、小学校、中学校の教員のそれぞれの大変さを理解しあえたり、学習面で相談ができる環境が自然とあるのもいいと感じました。</p>
52	<p>6年生の行事へのやる気、必要性が下がる。</p> <p>教員の通勤の不便さ。特に、冬など自動二輪が多い中、雪などで事故が多発している。バスの本数が少ない。それに対して、何も手が打たれていない。</p> <p>地域柄保護者のコミュニティーも小さいため学校に対して厳しくなっていると感じる。</p>

53	一貫校なので、会議の意見が通りづらいです。小学校での会議・中学校の会議が意見が違っていると決まらないことが多いです。
54	小学生や小学校教員が教えた方が良いし、中学校は中学校教員が教えた方が良い。 小学校低学年と中学3年生で考えると指導内容、指導方法、関わり方などなど、様々な違いがあります。
55	現在勤務中の大規模の施設一体型一貫校に関して言えば、メリット、デメリットいずれも感じません。
56	運動場使用時の調整が大変。
57	これから児童数が増えていく中で小中一貫の良さを感じることは難しいと思います。
58	デメリットしか感じていない。
59	施設一体型小中一貫校として、いろんな関りを持ちながらたくさんの+の部分を持てると教員にも子どもたちにもたくさんのメリットがあると思います。 しかし、一貫校ならではの良さ・悪さに対していろんな考え方があるので、そこがずれると悪循環がたくさん生まれることも実感しました。また、規模やシステムにより、施設が一体なだけで関わりが何も持てない等の問題も出てくるので、一貫校だから良い等ではなく、その時その時の実態に合わせ、～だからこそできることを共有して、同じ目標に向かっていけることが一番だと思います。
60	良い：小学校の教員と中学校の教員の交流が盛んになるところ。生徒指導上や配慮の必要な児童生徒についての情報共有がしやすいこと。お互いの校種のカリキュラムがよくわかり、それを生かした授業づくりがしやすい。 悪い：いわゆる中1ギャップがほとんどない代わりに子どもたちの感覚も小学校的であり、なんでも教員に頼りがちであったり、中学生になってからも保護者からの細かい要望も多い。また、高校で初めて施設も含めて学校が変わるため、高校に入ってかなり苦勞している卒業生が多いように感じる。 (行けなくなる子も多い) 一度こじれた人間関係の修復が難しく、リセットしようとしてもできない。クラスを一緒にしないでほしいなどの要望も毎年増えていってしまうので、クラス数の少ない学年はかなり苦勞する。小学校と中学校で発達段階も違うため、行事ごとなどでのすり合わせが難しい。
61	中学校の様子や進路選択に向けて中学校の先生方がどのように取り組んでいるのかが分かったことがよかった。 ただ文化が違うことで、なかなか折り合いがつかないこともある。 また、子どもの人数の増加により、施設利用の困難さや行事の改定、教育課程の変更が行われて、見通しが持てなかったり、引き継ぎが難しかったりする面がある。
62	6年生らしい行事があまりなく、リーダー経験を積めないところが気になります。
63	前問で解答済み
64	職員の数が多いので、業務の分担ができて負担軽減につながっている。しかし、情報共有が難しい側面もあり、密に連携する必要がある職種なので改善が必要だと感じている。 小学校高学年は、卒業等の行事や学校を引っ張るを経験できないことはデメリットだと感じている。

## ◆ 【まとめ】施設一体型小中一貫校を勤務することで感じたことのアンケート結果

- ・ 「施設一体型小中一貫校で勤務することで、自分と異なる校種の指導方法やカリキュラムについて、理解度が深まったかと思いませんか」という設問では、いずれの群も70%以上の教員が肯定的な回答だった。特に施設一体型小中一貫校で5年以上勤務した教員については、90%以上が肯定的な回答をしており、「異なる校種の指導方法やカリキュラムについての理解度を深める」にあたっては、施設一体型小中一貫校での勤務経験は非常に有効であることがわかった。
- ・ 「施設一体型小中一貫校は、校務分掌等の効率化、教職員の教材研究や授業準備の負担軽減につながると思いませんか」という設問では、「負担軽減にはつながらない」と回答した教員が過半数を占めていた。自由記述欄やその他の設問では「負担軽減につながる」という回答も見られたことから、全く負担軽減につながらないということではないものと思われるが、それ以上に行事の調整や運動施設の調整、大規模校化した学校内の会議などに大きな負担を感じているのだと推察される。
- ・ 「その他、施設一体型小中一貫校の良いところ、悪いところ、気づいたことなどを教えてください」という設問では、施設一体型小中一貫校での勤務で感じた良いところ・悪い所を自由記述方式にて回答いただいた。主な回答内容としては、異校種の教員から学べること、9年間を通して指導する意識が強くなったこと、小中間の情報連携がしやすいことがメリットとして挙げられた一方で、大規模校になった際の課題、運動場・体育館などの施設を小中で共有することの困難さ、施設一体型特有の課題（小学校でのリーダー経験がつかめない、人間関係がリセットされない、時程が違う）について多くの教員から指摘があった。

### 【良いところ】

- ・ 授業を核にして小中の教員がつながれるし、お互いに刺激がある。他校種への批判的な意見は一緒に働くことによって、尊敬に変わりました。
- ・ 居ながらにして連携できるメリットはなにものにも代えがたい。
- ・ 教職員の連携で教科の専門性が高まる。
- ・ 生徒情報の情報交換はかなりスムーズかつ一緒に考えられるので良い。
- ・ 小学校の教材研究への熱心さに触れることができ、自分の授業を見直すきっかけとなった。
- ・ 上級生が下級生の面倒を見たりすることによって責任感が生じる。
- ・ どのような学びや育ちをして、中学校に来るのがよくわかった。小学校の先生と知り合いになれたことが財産になった。
- ・ 生徒を9年間という長いスパンで成長を見られたことは、深い理解へとつながった。

### 【悪いところ】

- ・ 高学年のうちにリーダーとなる経験をどう積み上げていくかが課題。
- ・ 中1ギャップがほとんどない代わりに子どもたちの感覚も小学校的。
- ・ いい点よりも、校舎や活動場所の制限、大規模すぎるため交流、統制が取りにくいことが気になる。
- ・ 施設が共有で使いづらい。時程や行事の違いが大きい
- ・ 通常の小学校の施設と中学校の施設を合わせた以上のグラウンドや施設が必要
- ・ 大規模になると、何をやるにも人数が多すぎて、小中の調整や児童生徒の実態把握や、教職員の連携や共通理解など、時間を要したり困難なことのほうが多く、デメリットの多い
- ・ 2つの学校が1つになっても、校舎やグラウンドなどの施設や用具等は2校分必要。
- ・ 施設（体育館・プール）や道具が足りない。会議や行事が組みにくい。チャイムが授業中になる。中学校教員との摩擦や衝突
- ・ 施設が足りない。行事が面白くないです。

以上